

－ 取扱説明書 －

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

- ご使用の前に、この取扱説明書「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになった後は本機のそばなど、いつも手元に置いてご使用ください。
- この取扱説明書「安全上のご注意」に書かれている内容は、お客様が購入された商品の仕様には含まれない項目も記載されています。

[絵表示について]

- この取扱説明書および製品への表示では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告
言口

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

[絵表示の例]



△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図のなかに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



○記号は禁止の行為であることをつげるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



警告

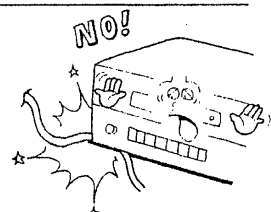
〔据付、設置、接続、移動にあたっての注意〕

■通風のよい場所に設置してください。高温や湿度、ほこりの多い次のような場所には設置しないでください。火災、感電の原因となります。

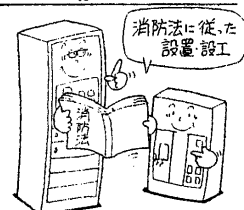
- ・サウナや風呂場など
- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所
- ・直射日光のあたる場所
- ・電気、ガス、石油ストーブなどの暖房器具の真上やその付近
- ・有害ガスやいろいろなほこりが特に多い所



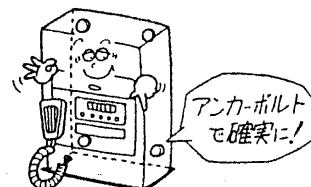
■電源配線の上に重いものをのせたりしないでください。配線が傷つき、火災、感電の原因となります。



■非常放送設備は消防法でその施工に関して定められています。法令に従って機器の選定、設置、配線、接続、点検を行ってください。



■壁取付する場合は指定のアンカーボルトでしっかりと固定してください。指定以外のアンカーボルトを使用したり、固定がゆるいと地震発生時機器が落下したり倒れたりしてけがの原因となります。

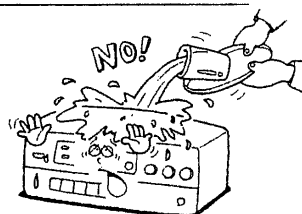


■この機器は改造しないでください。火災、感電の原因となります。

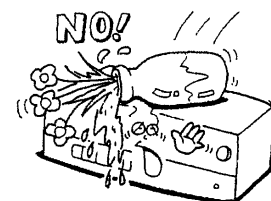


〔使うときの注意〕

■この機器に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。火災、感電の原因となります。



■この機器の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となります。



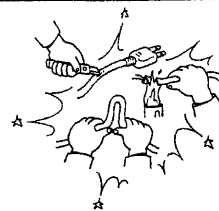


警告
言口

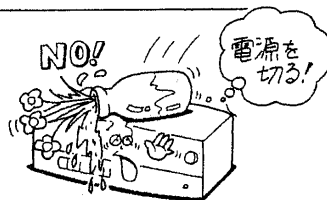
- この機器のキャビネットは、専門知識を持った人以外は絶対に外さないでください。感電、誤動作の原因になります。内部の点検、調整、修理は販売店にご依頼ください。



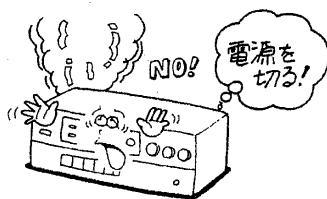
- 電源配線を傷つけたり加工したり無理に曲げたりねじつたり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが燃焼して火災、感電の原因となります。



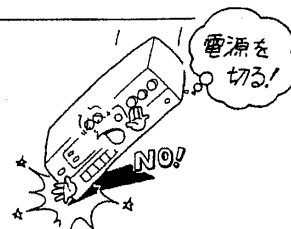
- 万一、機器の内部に水や金属物などが入った場合は、まず放送を中止し、接続された本体側の主電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にするかして販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



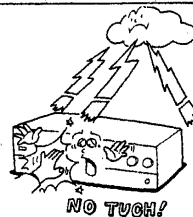
- 万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると火災、感電の原因となります。すぐに放送を中止し、接続された本体側の主電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にするかして、煙が出なくなるのを確認してから、販売店に修理をご依頼してください。



- 万一、この機器が落下したり、キャビネットを破損した場合は、接続された本体側の主電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にするかして販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



- 雷が鳴りだしたら、本体には触れないでください。感電の原因となります。



[お手入れ、保守、点検にあたっての注意]

- 電源配線が痛んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

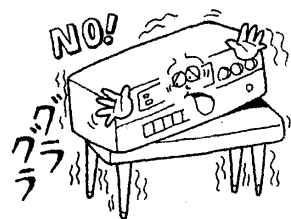




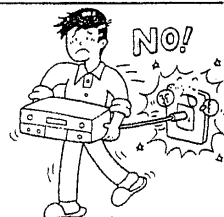
注意

〔据付、設置、接続、移動にあたって注意〕

- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



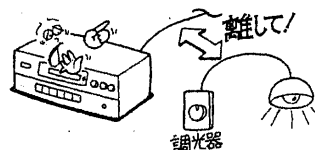
- 移動させる場合は接続された本体側の主電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にしてから行ってください。そのまま移動するとコードに傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



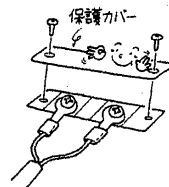
- 機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、延長したりすると、発熱しやけどの原因となることがあります。



- この機器への配線はスピーカ線や調光器系統、A C 電源系統とは必ず別配管とし離して布線してください。
同一配管しますと、発振やノイズ発生、誤動作の原因となります。

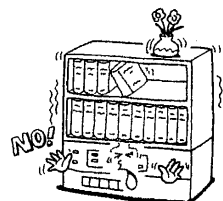


- 施工完了後は必ず取り外した端子カバー、保護カバー等は元どおりに戻してください。戻し忘れると感電、地絡の原因となります。

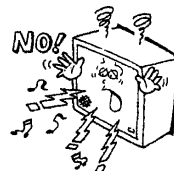


〔使うときの注意〕

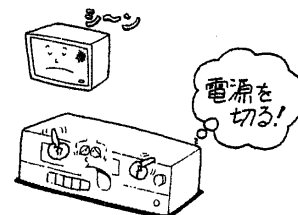
- この機器の上に重いものや、外枠からはみ出るような大きいものを置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり落下してけがの原因となることがあります。



- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。
スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。



- 使用中に突然音が出なくなったなどの異常が生じたときは、すぐに接続された本体側の主電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にしてお近くの販売店にご相談ください。そのまま放置しておくと、大変危険です。





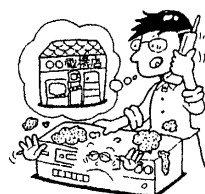
注意

[お手入れ、保守、点検にあたっての注意]

- この機器は消防法で6ヶ月間に1回の定期点検が義務づけられています。点検の有資格者（甲種消防設備士）に6ヶ月間に1回の定期点検を依頼してください。



- 1年に一度ぐらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。



- ヒューズを交換するときは必ず▽マークの指定容量のものをご使用ください。針金や銅線は使用しないでください。機器の保護ができず、発熱、火災の原因となります。



対象機種

ARF-1000RB シリーズ
ARC-1000RB 10局
ARC-2000RB 20局
(AWF-1000RBシリーズ専用非常業務リモコン)

このたびは東芝非常業務リモコンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
 お求めの非常業務リモコンを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
 なお、お読みになったあとは必ず保存してください。

目 次

各部のなまえ	2
各部のなまえとはたらき	3 ~ 4
特にご注意を	5
設置上のご注意	5 ~ 6
配線について	6
設置のしかた	7 ~ 10
接続のしかた	11
初期設定	12
取付けが完了したら	12
調整のしかた	13
非常放送のしかた	14 ~ 23
業務放送のしかた	24 ~ 25
保守点検のしかた	25
修理サービス	26
仕 様	27

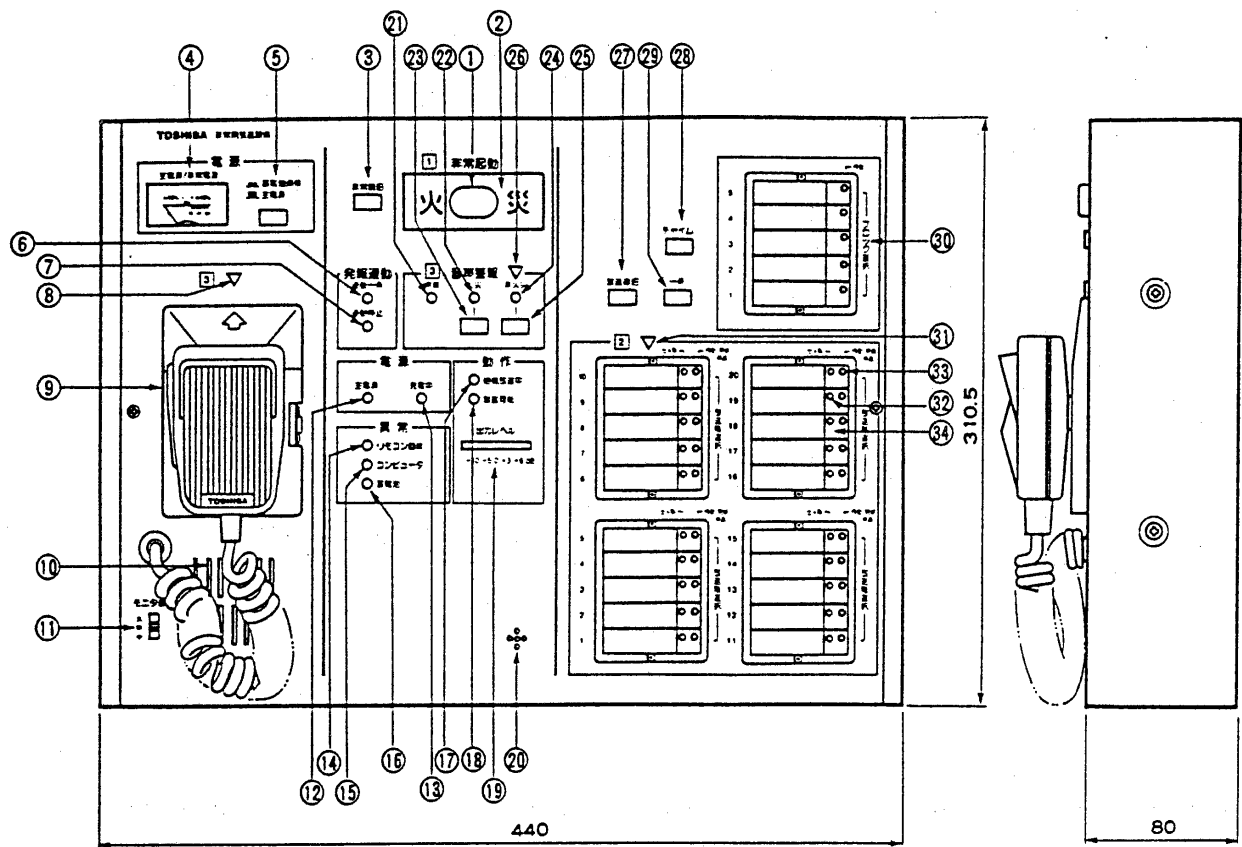
ご注意 文中で本体とあるのは「AWF-1000RBシリーズ」の壁掛形非常放送アンプ本体をさします。

工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

生産完了 2004年01月01日
 ARC-1000RB (6 / 32)

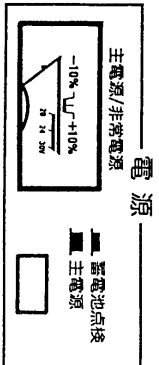
各部のなまえ



(単位: mm)

- | | | |
|----------------|--------------|-------------------|
| ①非常起動スイッチ | ⑭リモコン回線異常表示灯 | ⑳放送復旧スイッチ |
| ②火災灯 | ⑮コンピュータ異常表示灯 | ㉑チャイムスイッチ |
| ③非常復旧スイッチ | ⑯蓄電池異常表示灯 | ㉒一斉放送スイッチ |
| ④主電源/非常電源電圧計 | ⑰他機放送中表示灯 | ㉓ブロック選択スイッチ |
| ⑤蓄電池点検スイッチ | ⑱放送可能表示灯 | ㉔放送階選択指示灯 |
| ⑥運動一斉表示灯 | ⑲放送出力レベル計 | ㉕出火階表示灯 |
| ⑦運動停止注意灯 | ㉑火災音用ブザー | ㉖階別作動表示灯(短絡表示灯兼用) |
| ⑧マイク指示灯 | ㉒免報放送表示灯 | ㉗放送階選択スイッチ |
| ⑨非常・業務兼用マイクロホン | ㉓火災放送表示灯 | |
| ⑩モニタスピーカ | ㉔火災放送スイッチ | |
| ⑪モニタ音量調節器 | ㉕非火災放送表示灯 | |
| ⑫主電源表示灯 | ㉖非火災放送スイッチ | |
| ⑬充電中表示灯 | ㉗音声警報指示灯 | |

各部のなまえとはたらき



④主電源/非常電源電圧計

- 常時は主電源電圧を表示します。
- 蓄電池点検時は、蓄電池の電圧を表示します。

⑤蓄電池点検スイッチ

- 蓄電池の電圧を点検するときに押します。

①非常起動スイッチ

- 手動で非常放送するときおよび火災放送するときを押します。

②火災灯

- 自火報(自動火災報知設備)または非常起動スイッチからの起動により点灯または点滅します。
- 感知器起動時および手動起動時の火災放送移行へのタイマー動作中は点滅します。

③非常復旧スイッチ

- 非常放送終了時に押します。
- 非常放送が復旧します。

⑧マイク指示灯

- 非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
- マイク放送しているときは点灯します。

⑥運動一斉表示灯

- 自火報との運動を運動一斉に設定したときに点灯します。
- 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。

⑦運動停止注意灯

- 自火報との運動を停止に設定したときに点灯します。
- 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。

⑨非常・業務兼用マイクロホン

- トークスイッチを押しながら放送します。

⑩モニタスピーカ

- 放送内容をモニタできます。
- 非常放送時は操作ガイドの音声もでます。

⑫主電源表示灯

- 電源が供給されているときに点灯します。

⑬充電中表示灯

- 常用電源(AC100V)を受電中、内蔵の蓄電池を充電しているときに点灯します。

異常

- リモコン回線
- コンピュータ
- 蓄電池

⑭リモコン回線異常表示灯

- 本体と非常業務リモコン間の回線に異常があると点灯します。

⑮コンピュータ異常表示灯

- コンピュータに異常が生じると点灯します。

⑯蓄電池異常表示灯

- 蓄電池に異常が生じると点灯します。

③音声警報

- 発報
- 火災
- 非常火災

⑳音声警報指示灯

- 非常放送時点滅し、操作手順を知らせます。

㉑発報放送表示灯

- 発報放送中に点灯します。

㉒火災放送表示灯

- 火災放送中に点灯します。

㉓非火災放送表示灯

- 非火災放送中に点灯します。

㉔火災放送スイッチ

- 火災放送するときに押します。

㉕非火災放送スイッチ

- 非火災放送するときに押します。

㉗放送復旧スイッチ

- 放送終了時に押します。
- 選択されていた回線が解除され復旧します。

㉘チャイムスイッチ

- 放送前の予告音としてチャイム音を放送する時に押します。
- 4音の電子チャイム音が、1回放送されます。

㉙一斉放送スイッチ

- 非常および業務放送時、全回線一斉に放送するときに押します。
- 再度押すと復旧します。

㉚プロック選択スイッチ

- 業務放送時、プロック指定した回線に放送するときに押します。

㉛放送階選択指示灯

- 非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
- 非常放送時は、放送階が選択されると点灯します。
- 業務放送時は、緊急放送のとき点灯します。

㉜出火階表示灯

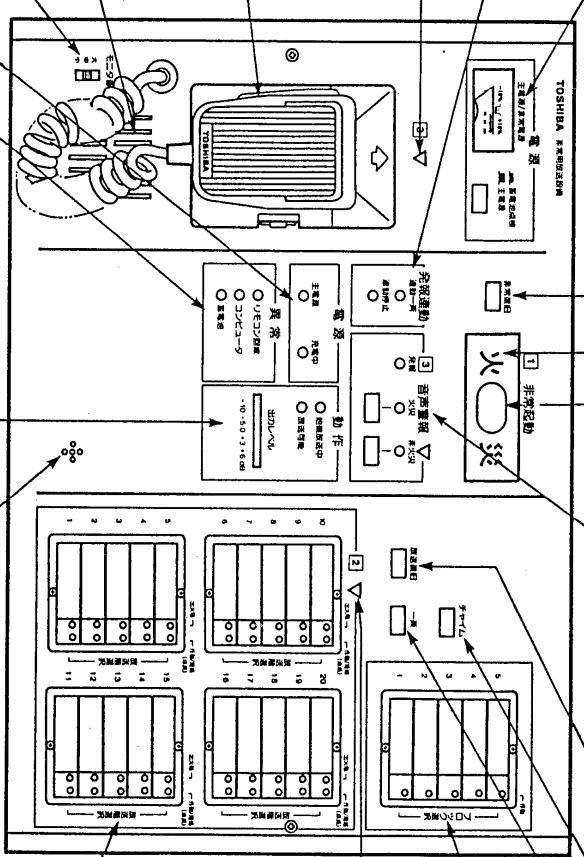
- 自火報(自動火災報知設備)等から起動がかかると点灯し、出火階を表示します。

㉝階別作動表示灯(短絡表示灯兼用)

- 放送先が選択され放送可能になったとき点灯します。
- スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断し、その回線は自動的に切り離され作動表示灯は点滅します。

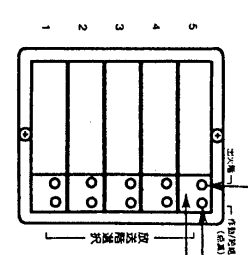
㉞放送階選択スイッチ

- 非常または業務放送時、階別または系統別に放送するときに押します。
- 再度押すと復旧します。



㉟火災音用プザー

- 非常放送時の火災音用のプザーです。



マイク扉内

③⑦ 発報連動停止スイッチ

- 感知器からの起動時の連動条件を設定します。
- 囲スイッチを押しながら押しますと順次モードが下表のとおり変わり、表示灯が点灯、消灯します。

モード	⑥ 連動一斉 表示灯	⑦ 連動停止 表示灯
運 動	消 灯	消 灯
連動一斉	点 灯	消 灯
連動停止	消 灯	点 灯

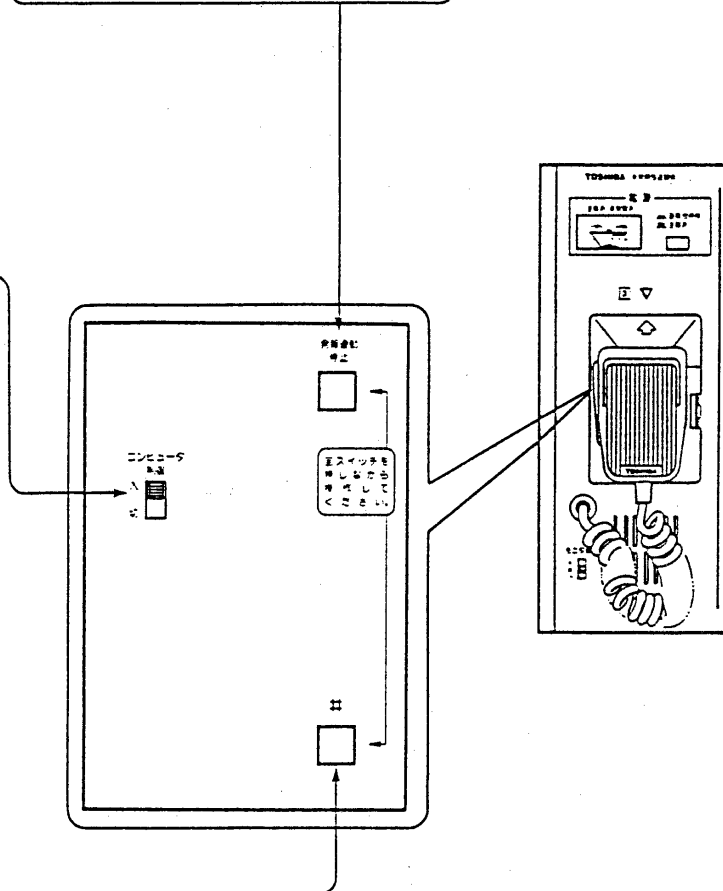
③⑤ コンピュータ制御スイッチ

コンピュータ
制御
入
切

- 通常は「入」の位置にします。
- 異常等で修理した後は、このスイッチを「切」にしてから「入」にしてください。正常の動作に戻ります。
(コンピュータのリセットスイッチとなります。)
- コンピュータが異常となったとき、コンピュータ制御スイッチを「切」にすると非常・業務兼用マイクロホンにより一斉緊急放送ができます。

③⑥ 囲スイッチ

- 発報連動停止スイッチを押すときに押します。



特にご注意を

- 通風のよい場所に設置してください。
- 湿度の高い所や温度の高い所での使用は避けてください。またリモコンの通風孔をふさぐようなことはおやめください。操作の妨げにならないよう左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。
- 認定品ですから改造は絶対にしないでください。
- 分電盤のスイッチは絶対に切らないでください。
- 停電時でも放送できるよう非常電源(本体側)が組み込まれており、常に充電していますので分電盤のスイッチは絶対に切らないようにしてください。
- 異物は感電や故障の原因となります。
- 機器内にピンなどの金属物が入った場合、故障、感電、火災などの原因になり大変危険です。万一金属物が入ったときはすぐにお買いあげの販売店か、お近くの東芝お客様ご相談センターにご連絡ください。
- 汚れを落とすときは、中性洗剤(台所用)をご使用ください。シンナーやベンジン、または化学ぞうきんなどを使用しますと変形、変色することがありますので絶対に使用しないでください。

設置上のご注意

本機は消防法に適合した機種です。本機の設置場所は消防法で次のように規定されています。

①

操作部又は遠隔操作器のうちの一のものは守衛室等常時人がいる場所(中央管理室が設けられている場合には当該中央管理室)に設けること。
— 消防法施行規則第25条の2の3のル—

②

増幅器、操作部及び遠隔操作器は点検に便利かつ、防火上有効な措置を講じた位置に設けること。
— 消防法施行規則第25条の2の3のト—

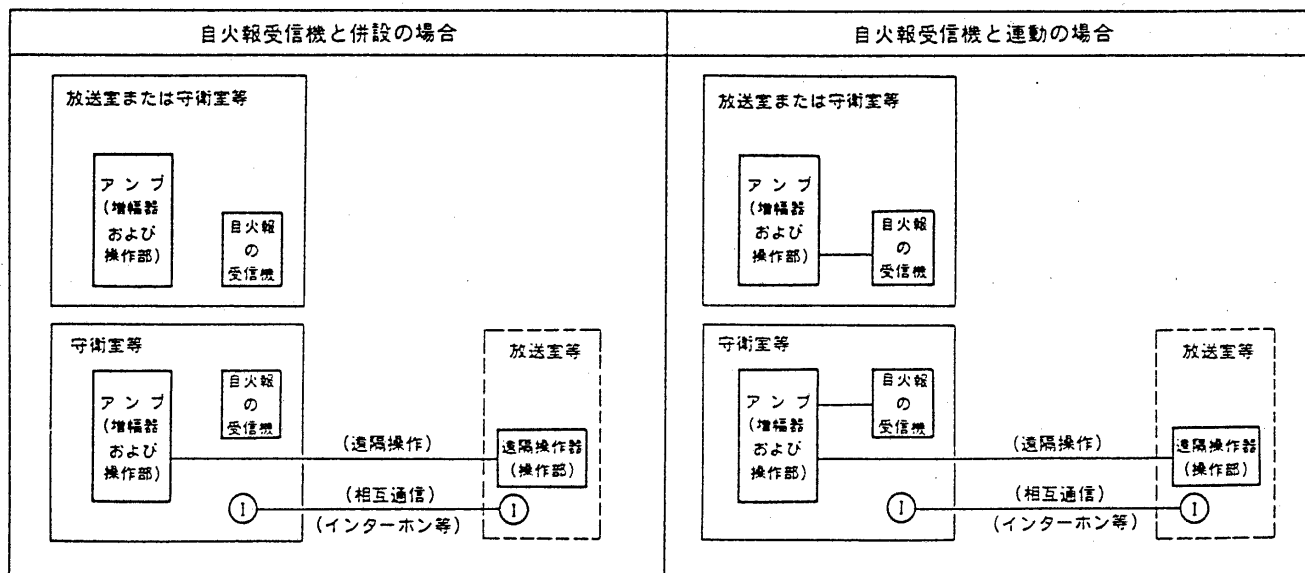
③

一の防火対象物に二以上の操作部又は遠隔操作器が設けられているときは、これらの操作部又は遠隔操作器のある場所相互で同時に通話することができる設備を設けており、かつ、いずれの操作部又は遠隔操作器からも当該防火対象物の全区域に火災を報知することができるものであること。
— 消防法施行規則第25条2の3のラ—

● ここで防火上有効な措置を講じた位置とは、当該設備を設置する防火対象物のうち、壁、床および天井が不燃材料で造られており、その開口部は甲種防火戸を設けた室をいいます。

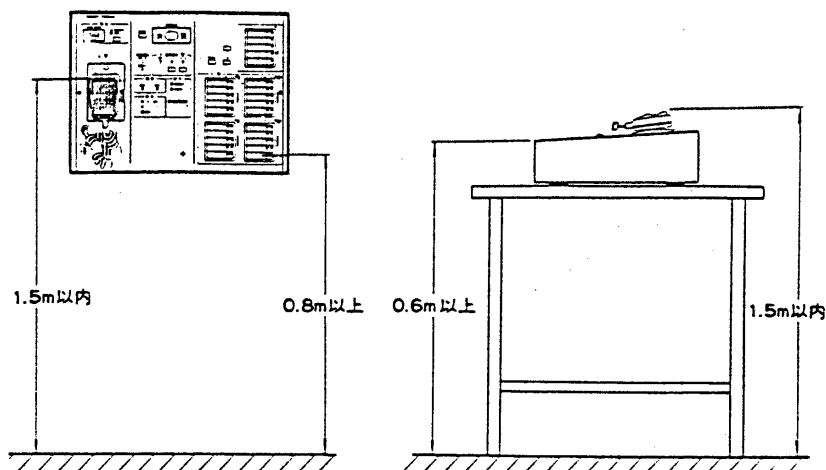
● 本機(増幅器、操作部)の設置方法には下記の4種類が考えられます。なお、下記の実線で表わした部屋は常時人がいて、①②③項を満足していなければなりません。

● 報知区域については操作部又は遠隔操作器が1以上守衛室等常時人がいる場所に設けられていれば、遠隔操作器等から報知できる区域を防火対象物全域としないことができる場合があります。
(消防予第22号の5)



④

操作部および遠隔操作器の操作スイッチは、床面からの高さが0.8m（いすに座って操作するものにあつては0.6m）以上1.5m以下の箇所に設けること。



（壁取付けまたはラック組み込み
てご使用の場合）

（卓上形または盤埋め込みで
ご使用の場合）

上図の範囲で取り付けてください。

配線について

本機の配線工事は、電気工作物にかかわる法令の規定によるほか、消防法の規定によります。

① 壁掛形本体～本機までの配線

イ、600ボルト耐熱ビニル絶縁電線またはこれと同等以上の耐熱性を有する電線を使用すること。

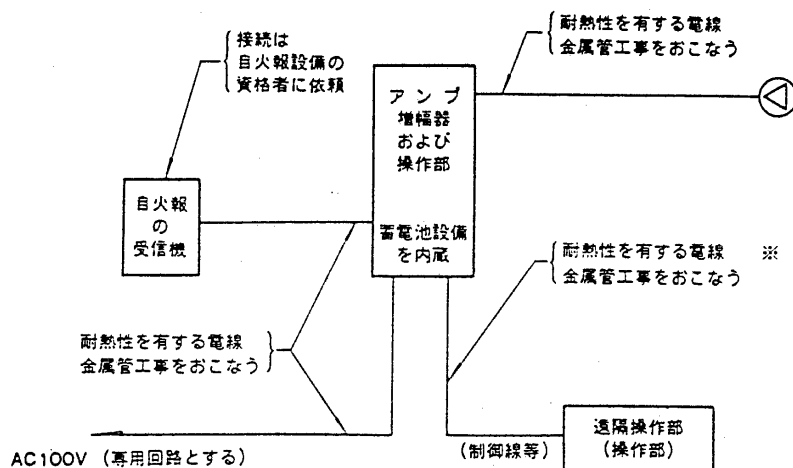
ロ、金属管工事、可とう管線管工事、金属ダクト工事、またはケーブル工事（不燃性のダクトに布設するものに限る）により設けること。ただし消防庁長官が定める基準に適合する電線を使用する場合はこの限りでない。

－消防法施工規則第25条の2の四のニ－

－消防法施行規則第12条の1の5－

- 消防庁長官が定める基準に適合する電線とは耐熱電線のことであり消防庁告示第10号に規定する基準に合格した電線です。この耐熱電線を使用すれば金属管工事等は不用です。

- 本機および壁掛形本体の配線をまとめると次のようになります。



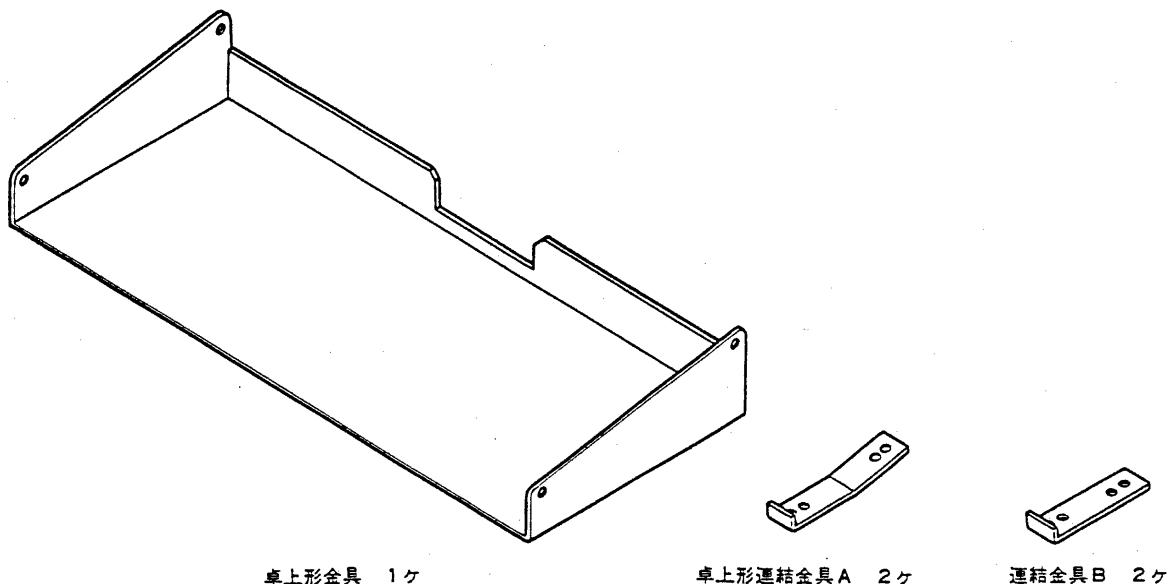
※ノイズの混入を避けるためツイストペアケーブルをご使用ください。

設置のしかた

- 本機は卓上形、壁取付形、ラック（または盤）埋め込み形のいずれの取り付けでもご使用できます。それぞれの取り付け用として、次の取付金具（別売）が必要です。
 - 卓上形使用の場合……………卓上形金具（形名：LAD-9002）
 - 壁取付形使用の場合……………壁取付形金具（形名：LAD-9003）
 - ラック（または盤）埋め込み使用の場合……………ラックマウント形金具（受注生産品）が必要となります。

卓上形使用の場合の金具の取り付けかた

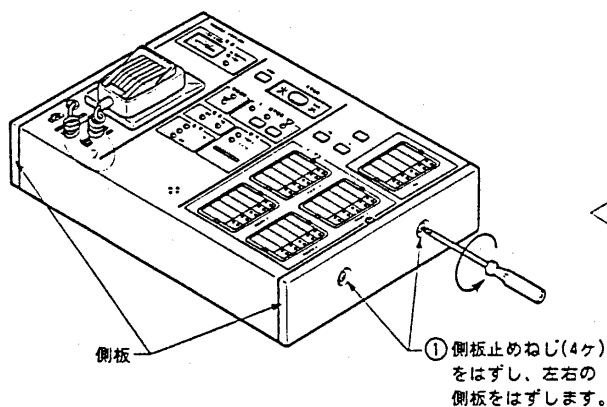
- 卓上形でご使用の場合は卓上形金具（形名：LAD-9002）（別売）が必要です。卓上形金具は次の取付金具で構成されています。



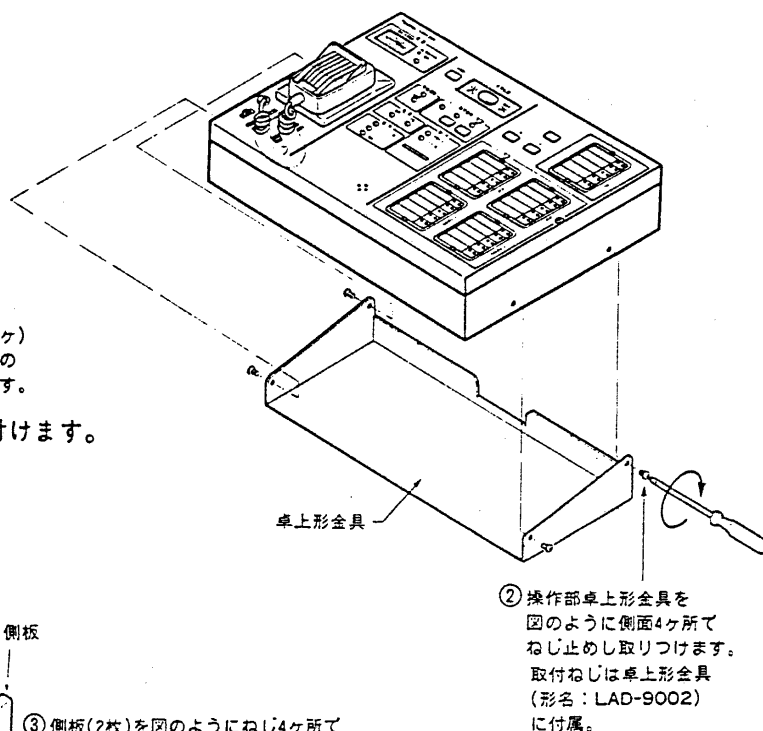
- この金具を使って次の手順で卓上形金具を取り付けます。連結金具は使用しません。

手順 1

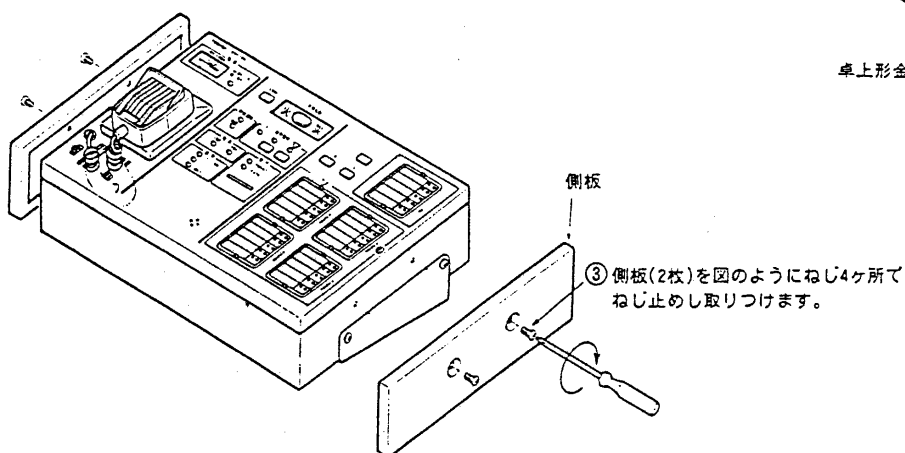
① 非常業務リモコンの側板をはずし



② 卓上形金具を取り付け

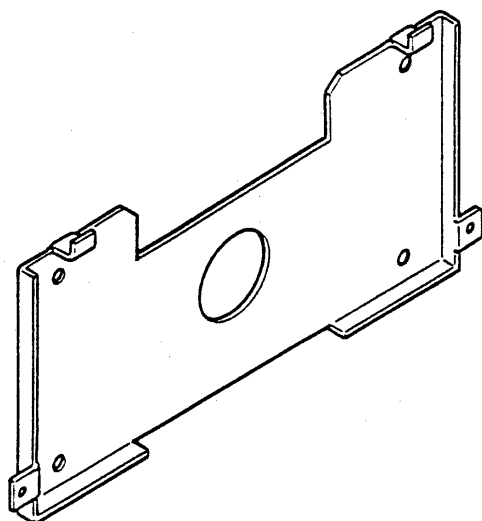


③ はずした側板を非常業務リモコンに再度取り付けます。

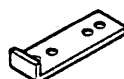


壁取付形使用の場合の壁への取り付けかた

- 壁に取り付けてご使用の場合は壁取付形金具（形名：LAD-9003）（別売）が必要です。
壁取付形金具は次の取付金具で構成されています。



壁取付形金具 1ヶ



連結金具B 4ヶ



壁固定金具 2ヶ

この金具を使って次の手順で壁へ取り付けます。連結金具は使用しません。

手順 1

① 付属の取付用型紙を使って

(1) 非常起動スイッチの位置が床面から 1.5m 以内

(2) 最下部の階別選択スイッチの位置が床面から 0.8m 以上

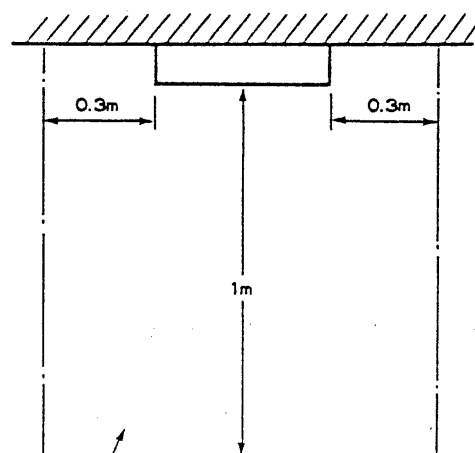
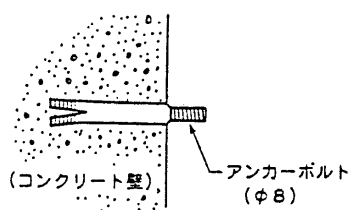
の位置にくるように、非常業務リモコン用の取付用型紙を壁に貼り付けてください。

なお、操作の妨げにならないよう左右 0.3m、前面 1m 以内には障害物等がないような場所を選んでください。

② 取付用型紙の「アンカーボルトの位置」4ヶ所に

アンカーボルトを打ち込んでください。

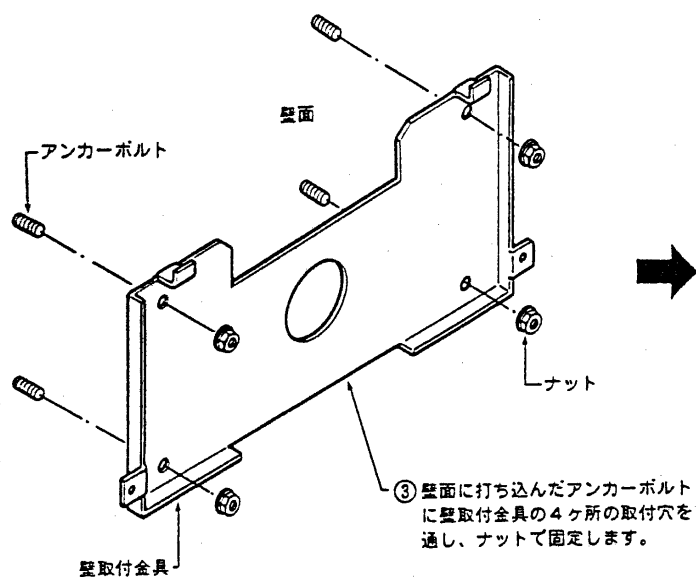
（板壁に取り付ける場合はねじを使用してください。）



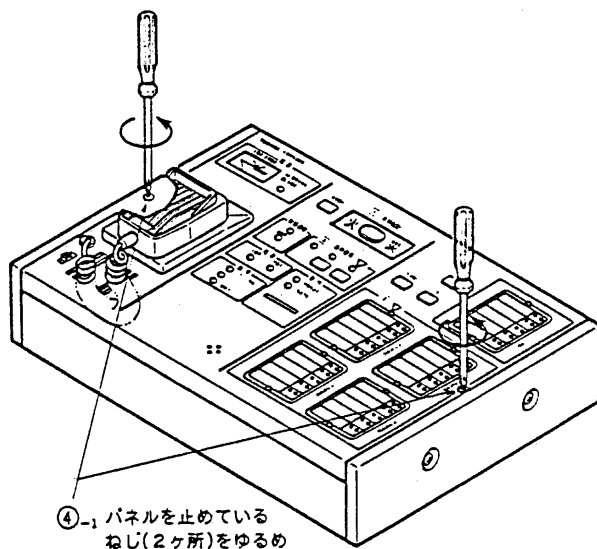
この範囲には障害物がないようにしてください。

手順2

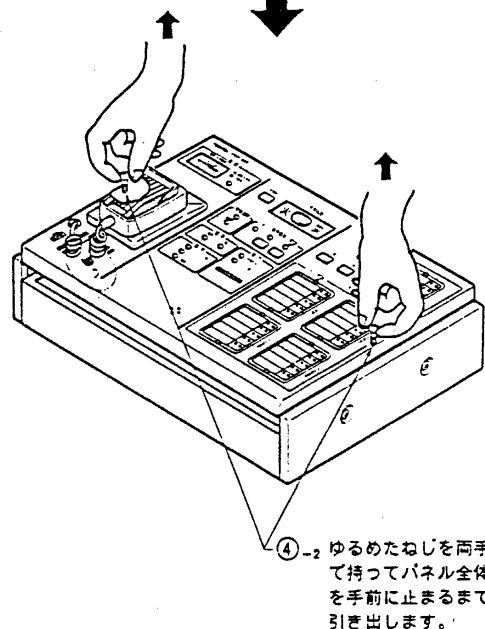
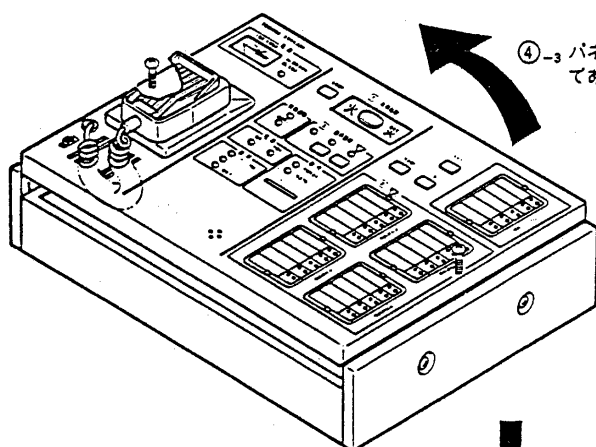
③ 壁取付金具を壁に取り付けます。



④ 非常業務リモコンのパネルをあけ

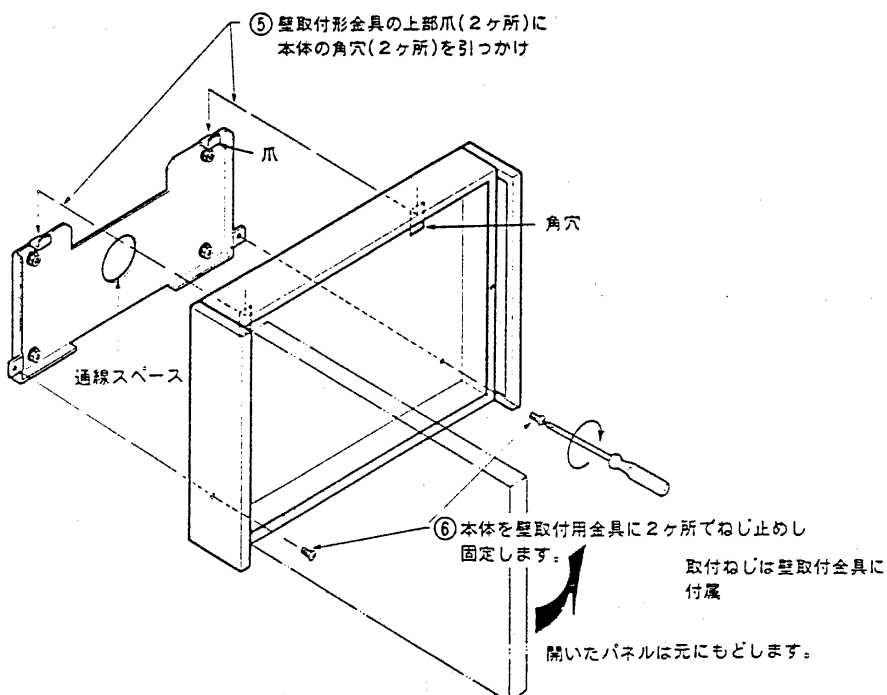


④-3 パネルを左開きであけます。



⑤ 壁取付金具に本体を引っかけ

⑥ 取付ねじで固定します。

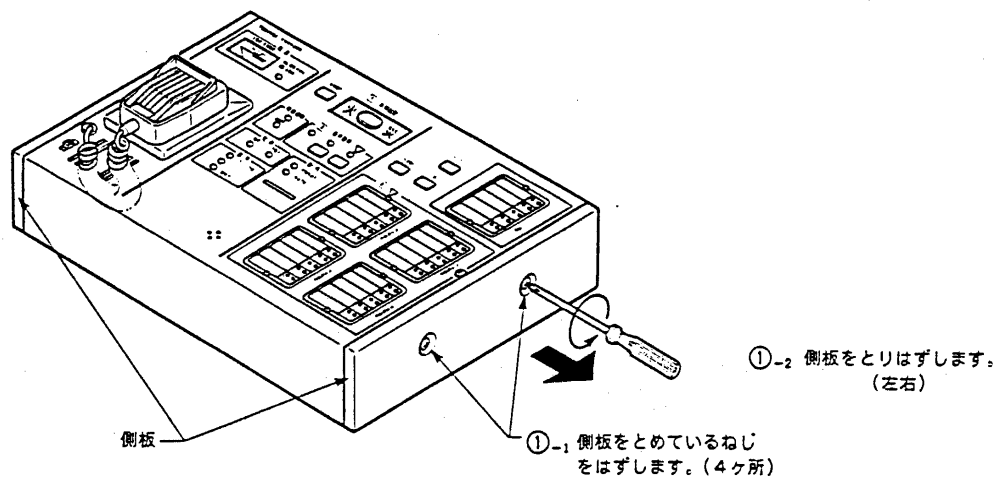


ラック(または盤)埋め込み使用の場合の金具の取り付けかた

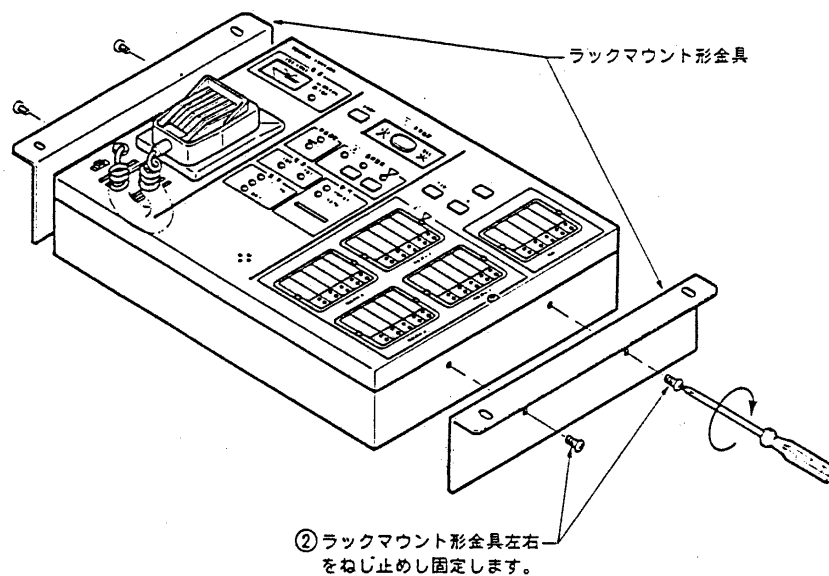
- ラックまたは盤等に埋め込んでご使用の場合はラックマウント金具(受注生産品)が必要です。
- このラックマウント形金具を使ってラックマウントまたは盤に埋め込んでください。

手順 1

①側板を取りはずします。



②ラックマウント形金具を取り付けます。



接続のしかた

- 本機が接続できる機器は次のシリーズの壁掛形非常放送アンプです。

AWF-1000RBシリーズ

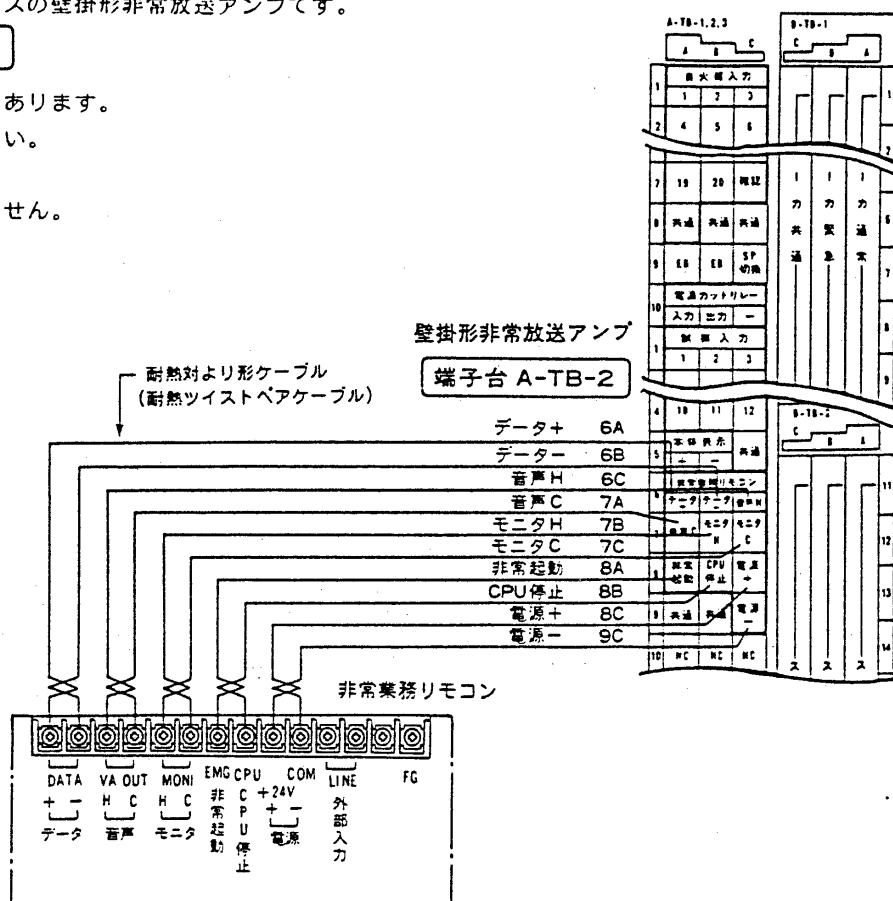
- 接続用端子はパネルをあけた内部にあります。
- 下図のように本体と接続してください。

ご注意

下記シリーズの本体との接続はできません。

AWF-1000R シリーズ
AWF-1001R シリーズ
AWF-1002R シリーズ
AWF-1000RAシリーズ
AWF-1003RAシリーズ

- 2 台目の非常業務リモコンも同様に接続します。



- 配線は必ず耐熱対より形ケーブル(耐熱形ツイストペアケーブル)をご使用ください。
(2 本ずつが撚ってある耐熱ケーブル)
- ツイストペアケーブルを使用しないと誤動作や、音声への伝達ノイズとびこみの原因となりますので必ずツイストペアケーブルを使用してください。
- 許容線路抵抗は下表のとおりです。線路抵抗値が許容線路抵抗以内になるように線径を選んでください。
- 電源線の線路抵抗がオーバーする場合には 6 対以上 (4 対は制御用) の電線として 2 対以上をパラ接続して許容線路抵抗値以下になるようにしてください。

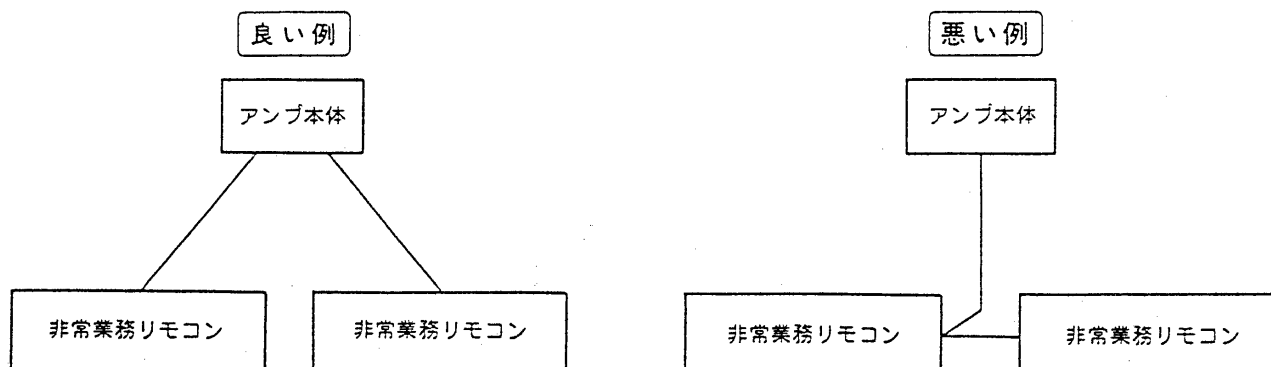
許容線路抵抗値

電源線 (1 対)	制御線 (4 対)
3 Ω	50 Ω
(1 本あたり 1.5 Ω)	(1 本あたり 25 Ω)

耐熱対より形ケーブルの線路抵抗値 (1 線あたり)

線 径	抵抗値
φ0.65mm	約 58 Ω / km
φ0.9mm	約 30 Ω / km
φ1.2mm	約 17 Ω / km
φ1.6mm	約 10 Ω / km

- 非常業務リモコンを 2 台接続するときは、リモコンで渡り配線はせずに必ず本体で分岐し、各リモコンへ配線するようにしてください。



初期設定

- 使用する前に扉側の内部基板上のディップスイッチを設定する必要があります。

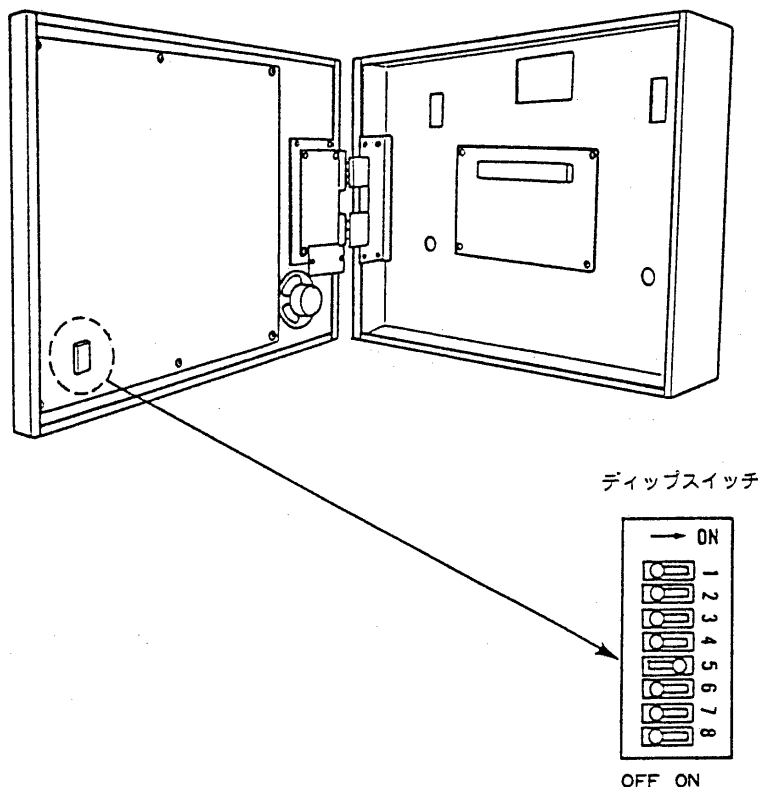
次の手順で設定してください。

①アドレスの設定

本機が1台目の非常業務リモコンであるか、2台目であるかを設定する必要があります。

②警報ブザー音の設定

リモコン通信異常および蓄電池異常時等の警報ブザー音の鳴り時間を連続または一定時間（2分）のどちらかに設定できます。



●リモコン台数の設定

スイッチNO.5, 6で設定

スイッチ	NO.5	NO.6
1台目リモコン (出荷時)	ON	OFF
2台目リモコン	OFF	ON

●警報ブザー音の設定

スイッチNO.2で設定

連続 (出荷時)	OFF
一定 (2分)	ON

取付、接続が完了したら

- 取付、接続が完了したら、次の手順で壁掛形非常放送アンプ本体の電源を投入し、動作確認を行なってください。

① 初期設定を行なってください。……………14ページ参照



② 壁掛形本体の主電源スイッチを「入」にし、AC100Vを入力してください。

(壁掛形非常放送アンプの取扱説明書をご参照ください。)



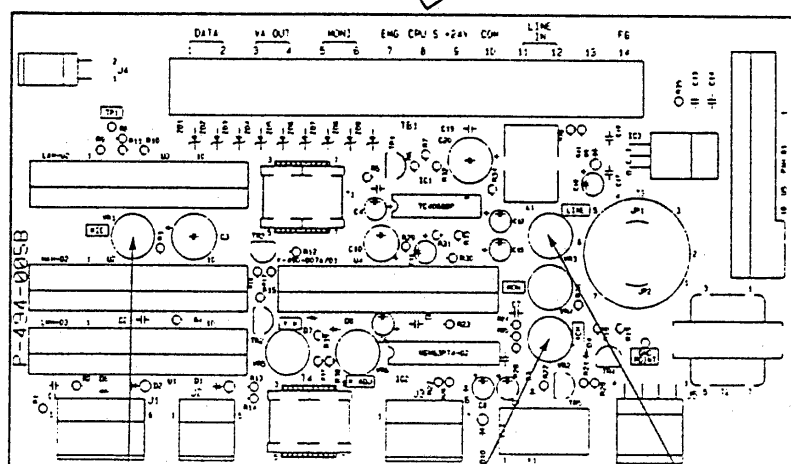
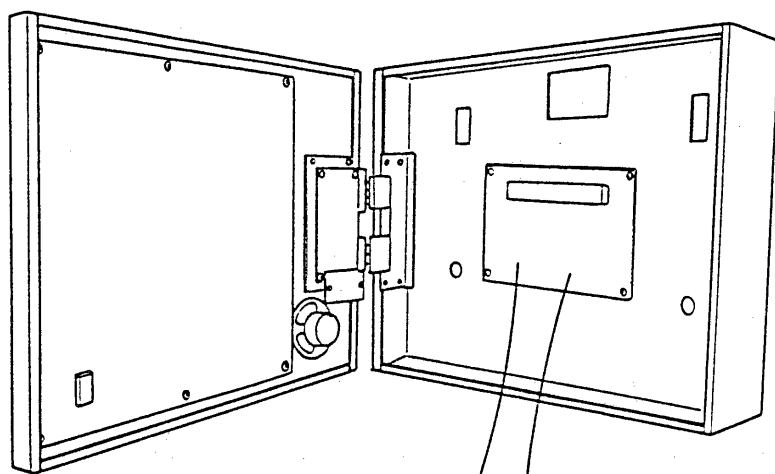
③ 取扱説明書に従って動作確認を行なってください。

非常・業務兼用マイク、外部入力、4音チャイムの音量の調整

- 非常業務兼用マイク、外部入力、4音チャイムの音量は、出荷時定格(AC100V)でるように調整されています。これらの音量を調整する場合(特に小さくて大きくする場合)は、いま一度下記の事項の点検を行なってください。

- ① スピーカが過負荷になっていませんか……スピーカのワットの合計値はアンプの出力(ワット)合計値以下でなければなりません。
- ② スピーカアッテネータが正しく選定、接続されていますか……使用スピーカに適合したアッテネータが必要です。誤接続されると業務放送も影響をうけます。

- 非常・業務兼用マイク、外部入力および4音チャイムの音量は、リモコン内部の半固定ボリュームで調整できます。



マイク用音量 VR

VR1

非常・業務兼用マイクの
音量を調整できます。

4音チャイム用音量 VR

VR2

4音チャイムの音量を
調整できます。

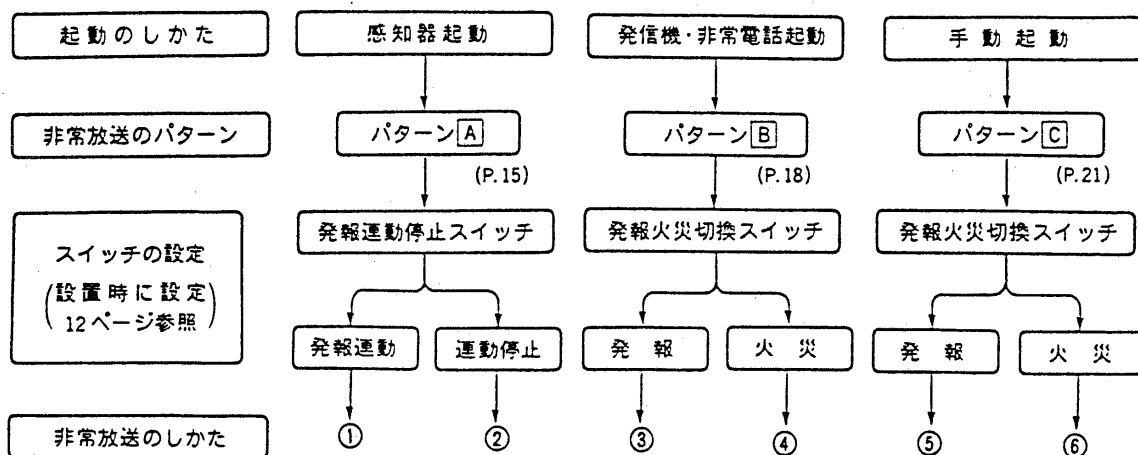
外部入力用音量 VR

VR3

外部入力の音量を
調整できます。

非常放送のしかた

- 本非常用放送設備は、火災発生時に自火報設備等と連動して、音声合成による音声警報(メッセージ・シグナル音)を自動的に放送します。
- 起動のしかたおよびスイッチ設定により、放送のしかたが異なり、次のようになります。



- ① 感知器起動(発報連動の場合).....(p.16 参照)
- ② 感知器起動(発報連動停止の場合).....(p.17 参照)
- ③ 発信機・非常電話起動(発報放送ありの場合).....(p.19 参照)
- ④ 発信機・非常電話起動(発報放送なしの場合).....(p.20 参照)
- ⑤ 手動起動(発報放送ありの場合).....(p.22 参照)
- ⑥ 手動起動(発報放送なしの場合).....(p.23 参照)

- 音声警報は、次の3種類があります。

発 報 放 送	火 災 放 送	非 火 災 放 送
ピンポン ピンポン ピンポン 「ただいま〇階の火災感知器が 作動しました。 係員が確認しておりますので、 次の放送にご注意ください」 Attention please. A fire alarm has activated on the *th floor. We are checking now. Please wait for the next announcement. 2回くり返し	ピンポン ピンポン ピンポン 「火事です。火事です。 〇階で火災が発生しました。 落ち着いて避難してください」 Attention please. There is a fire on the *th floor. Please proceed to an emergency exit and evacuate the building in a calm manner. ビュー ビュー ビュー連続くり返し	ピンポン ピンポン ピンポン 「さきほどの火災感知器の作動 は、確認の結果、異常がありま せんでした。 ご安心ください」 Attention please. The alarm reported earlier was not caused by a fire. We are very sorry for the disturbance. 2回くり返し

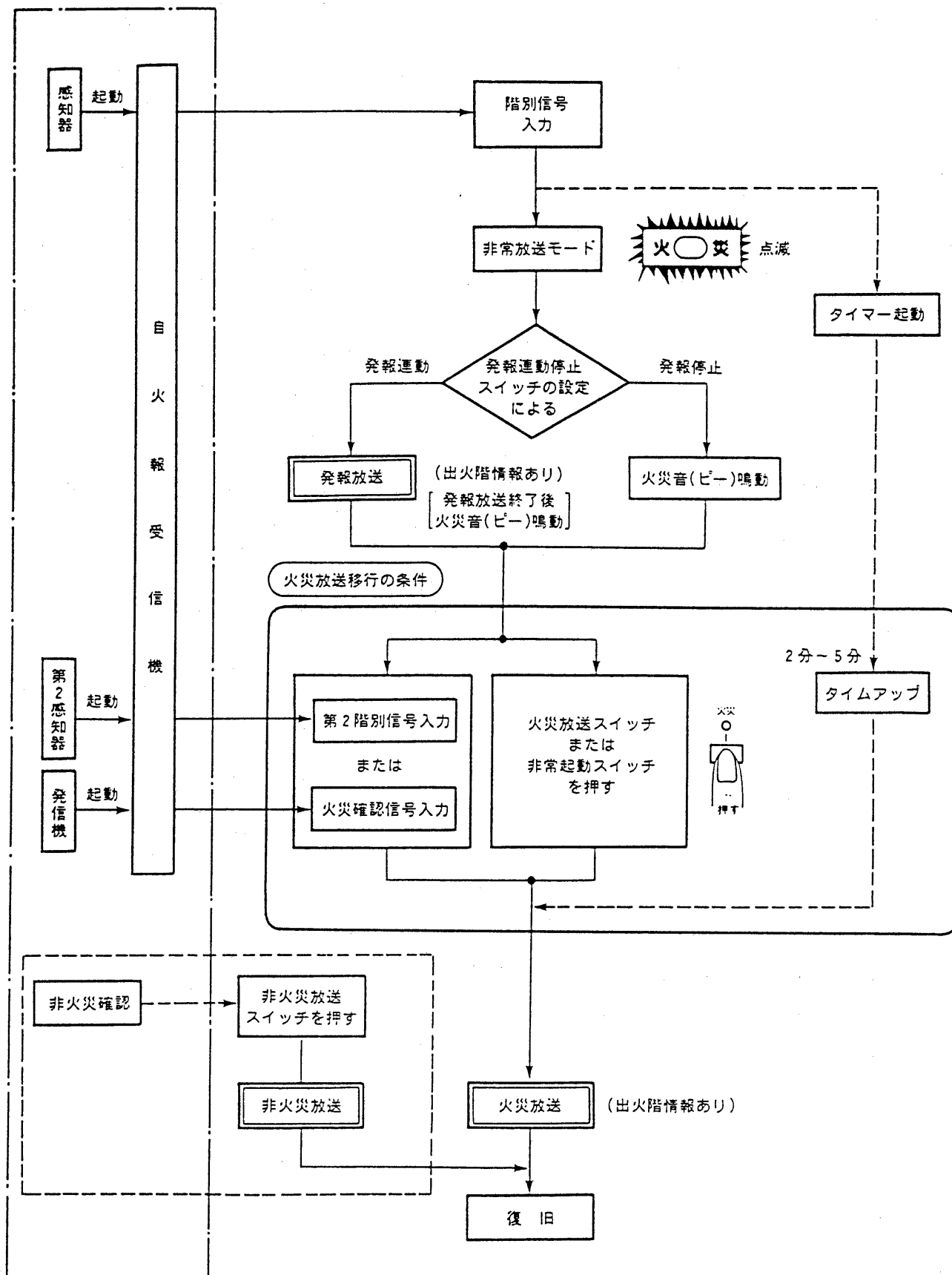
ご注意 英文あり、なしは、プログラム書き込みにより設定となります。(出荷時は英文なしです。)

- 非常放送中の動作の注意点

1. マイク放送は、優先して、いつでもできます
2. 火災放送は、次の操作により停止できます。
 - ・マイクのトークスイッチを「入」にする。(放送階選択されたままとなります。)
 - ・放送復旧スイッチを押す。(放送階が全て解除されます。)
3. 各音声警報の放送中の各操作後の動作は、次のとおりとなります。

動 作	放 送	発 報 放 送	火 災 放 送	非火災放送
放送中のマイク放送後の動作			「ビュー ビュー ビュー」	
放送中の放送復旧後、再選択後の動作		無 音	の連続くり返し	無 音

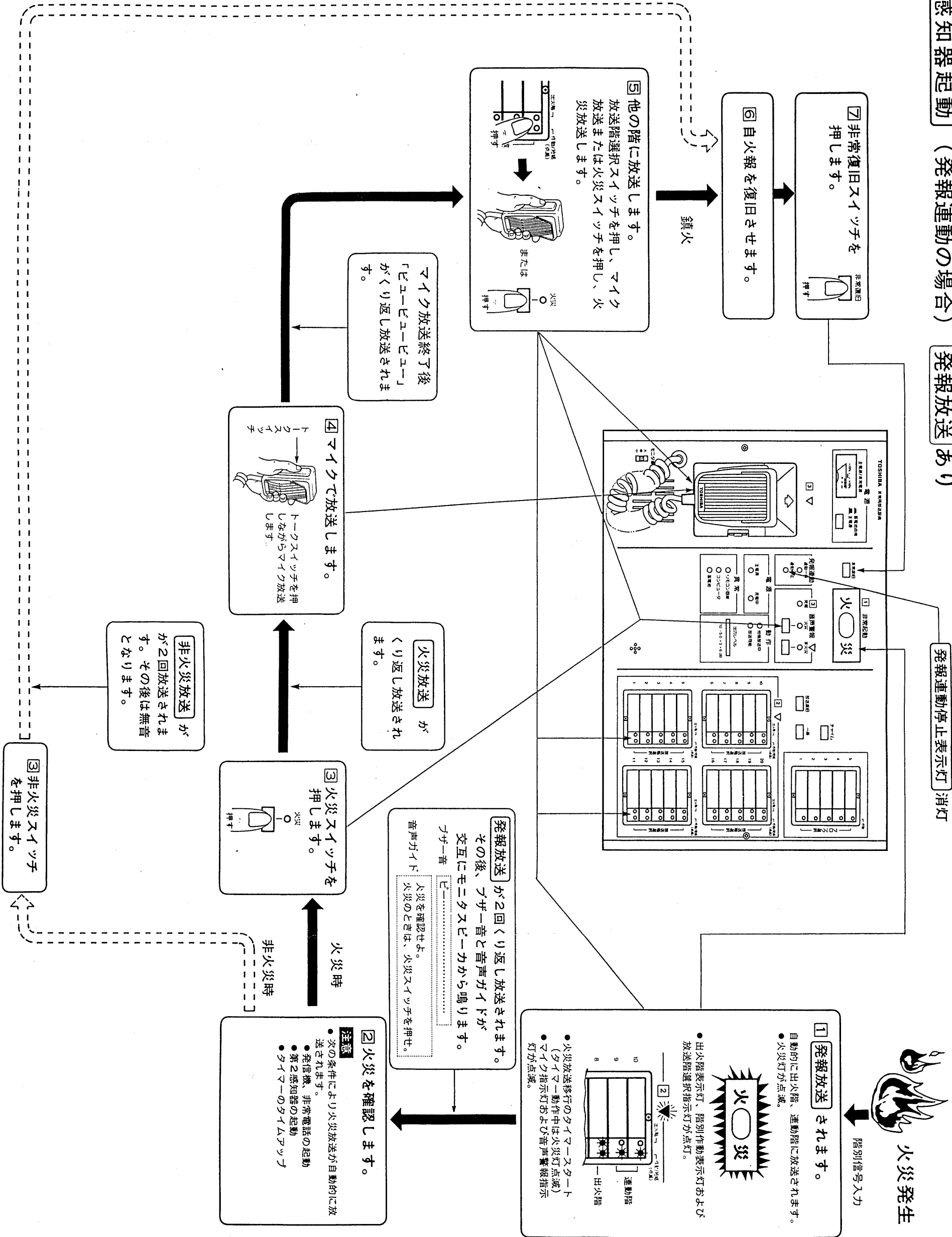
- 初めに感知器が起動して、自火報受信機から階別信号が入力した場合の動作パターンです。
- 階別信号が入力されると非常放送モードとなり、タイマーがスタートし、発報連動停止スイッチの設定により、次の2つのモードに分かれます。
 - ・ 発報連動…発報放送を自動的に放送（発報放送終了後モニタスピーカから火災音「ピー」と音声ガイドが鳴動）
 - ・ 発報停止…発報放送なし（モニタスピーカから火災音「ピー」と音声ガイドが鳴動）
- 火災放送移行の条件(下記)により、火災放送に移ります。
- 非火災放送は、非火災放送スイッチを押すことにより、いつでもすることができます。
- マイク放送は、発報放送、火災放送中でも常に優先して、放送できます。



非常放送のしかた ①

感知器起動 (発報連動の場合) 発報放送あり

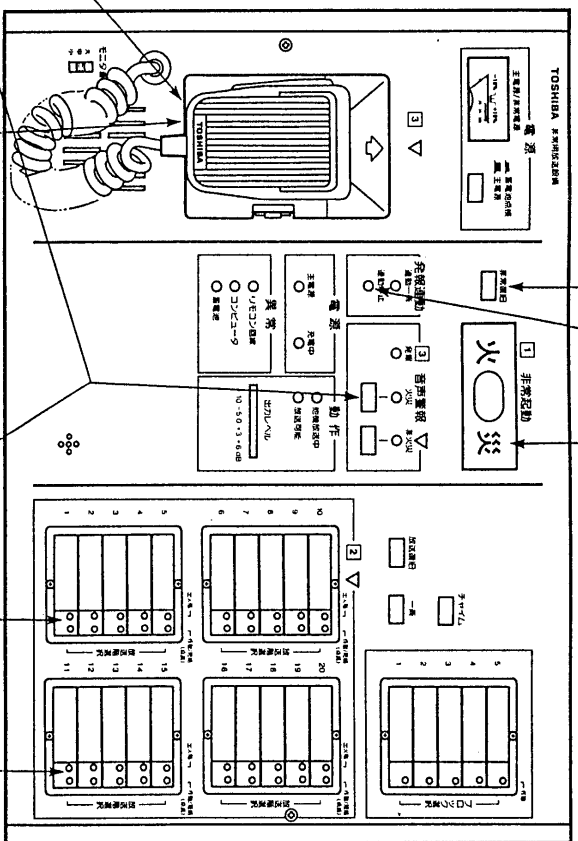
発報連動停止表示灯 消灯



非常放送のしかた ②

感知器起動 (発報連動停止の場合) 発報放送 なし

発報連動停止表示灯 点灯



非常復帰スイッチを押します。

自火報を復旧させます。

鎮火

⑤ 他の階に放送します。
放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。

マイク放送終了後「ビュ〜ビュ〜」がくり返し放送されます。

④ マイクで放送します。
トークスイッチを押しながらマイク放送します。

火災放送がくり返し放送されます。

③ 火災スイッチを押します。

非火災放送が2回放送されます。その後は無音となります。

③ 非火災スイッチを押します。

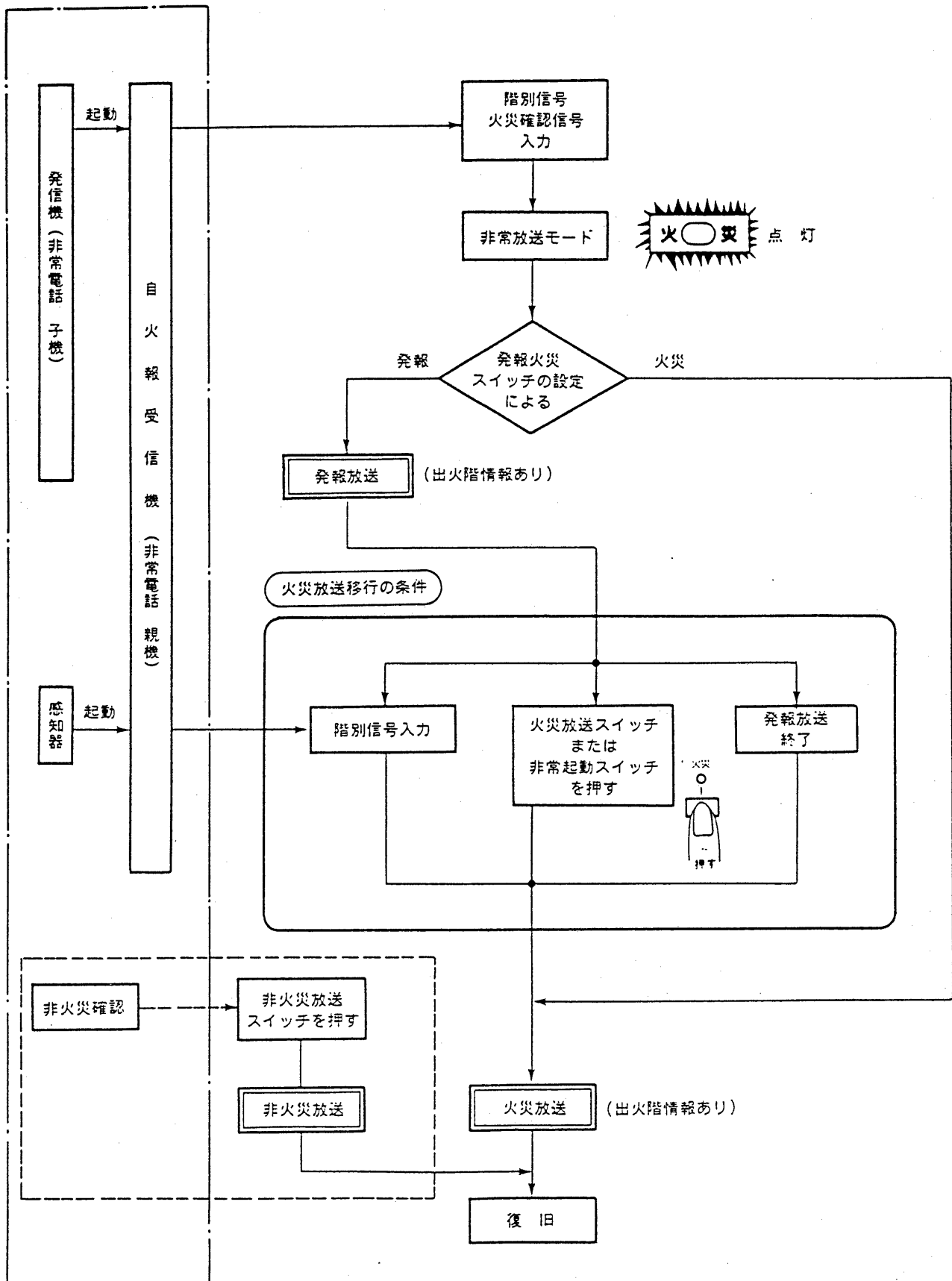
① ザー音と音声ガイドが交互にモニタスピーカから鳴ります。
ザー音
ビー
火災を確認せよ。
火災のときは、火災スイッチを押せ。
音声ガイド
注意 放送はされません。
火災灯が点滅。
出火階表示灯、階別作動表示灯および放送階選択指示灯が点灯。
火災放送移行のタイマースタート (タイマー動作中は火災灯点滅)
マイク指示灯および音声警報指示灯が点滅。

② 火災を確認します。
注意
次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
● 発信機、非常電話の起動
● 第2感知器の起動
● タイマーのタイムアップ

火災時

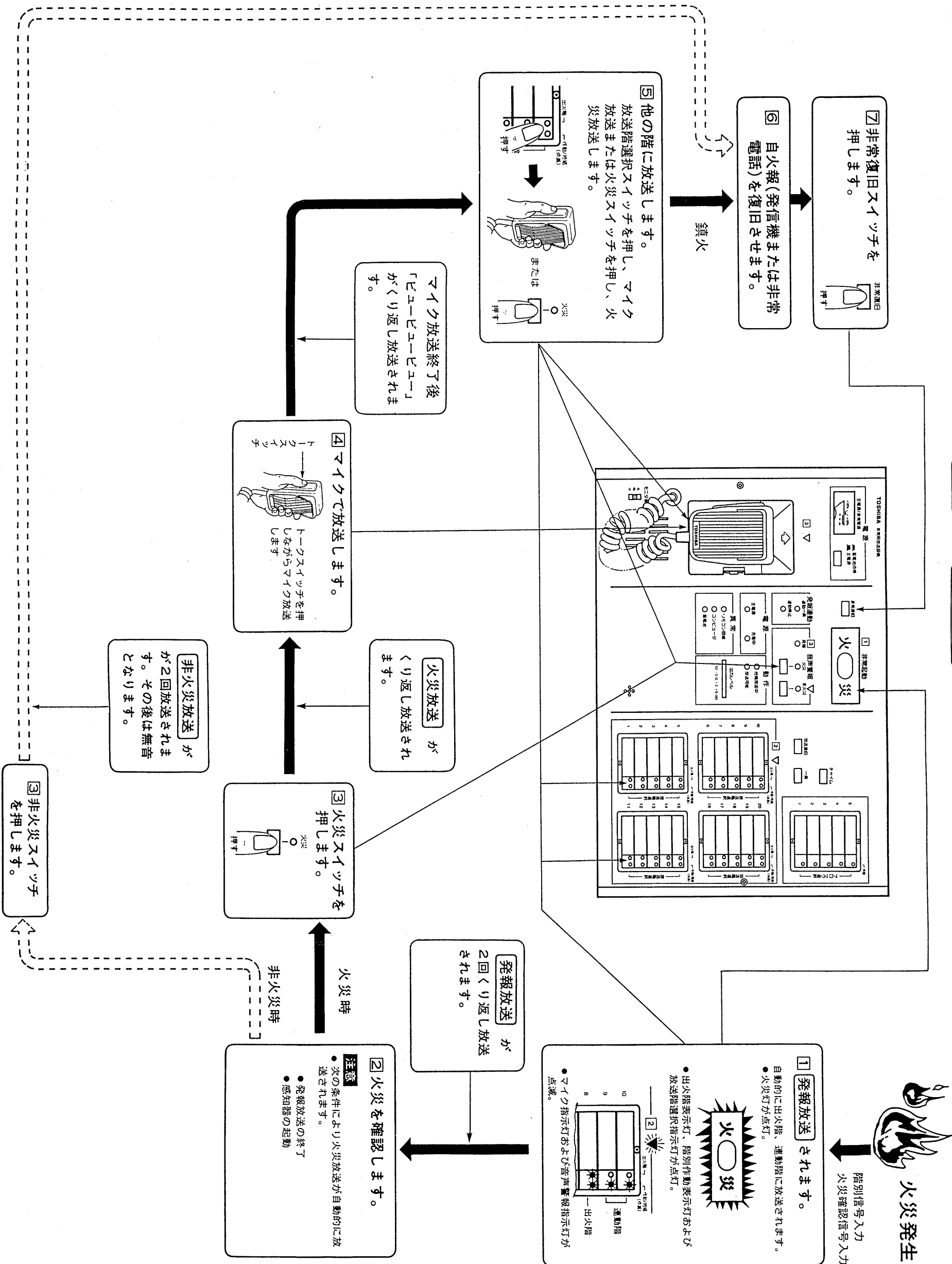
非火災時

- 初めに発信機または非常電話が起動して、階別信号および火災確認信号が入った場合の動作パターンです。
- 階別および火災確認の信号が入力されると、非常放送モードとなり、発報火災切換スイッチの設定により、次の2つのモードに分かれます。
 - ・ 発報…発報放送を自動的に放送(下記移行条件により火災放送に移ります。)
 - ・ 火災…火災放送を自動的に放送
- 非火災放送は、非火災スイッチを押すことにより、いつでもできます。
- マイク放送は、発報放送、火災放送中でも常に優先して放送できます。



非常放送のしかた ③

発信機・非常電話起動 (発報火災切換スイッチが **発報** 側) **発報放送** あり

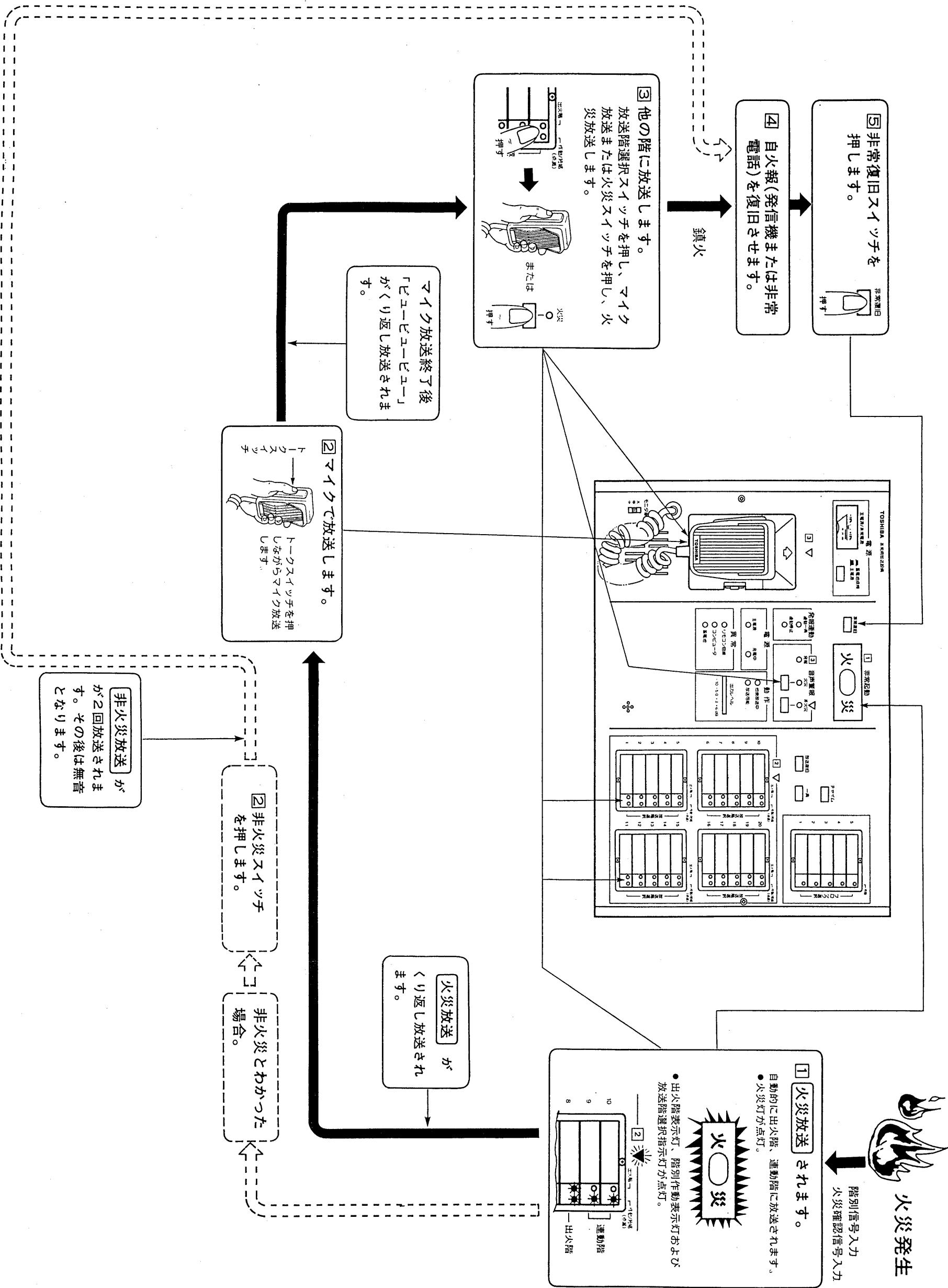


非常放送のしかた ④

発信機・非常電話起動

(発報火災切換スイッチが**火災**側)の場合

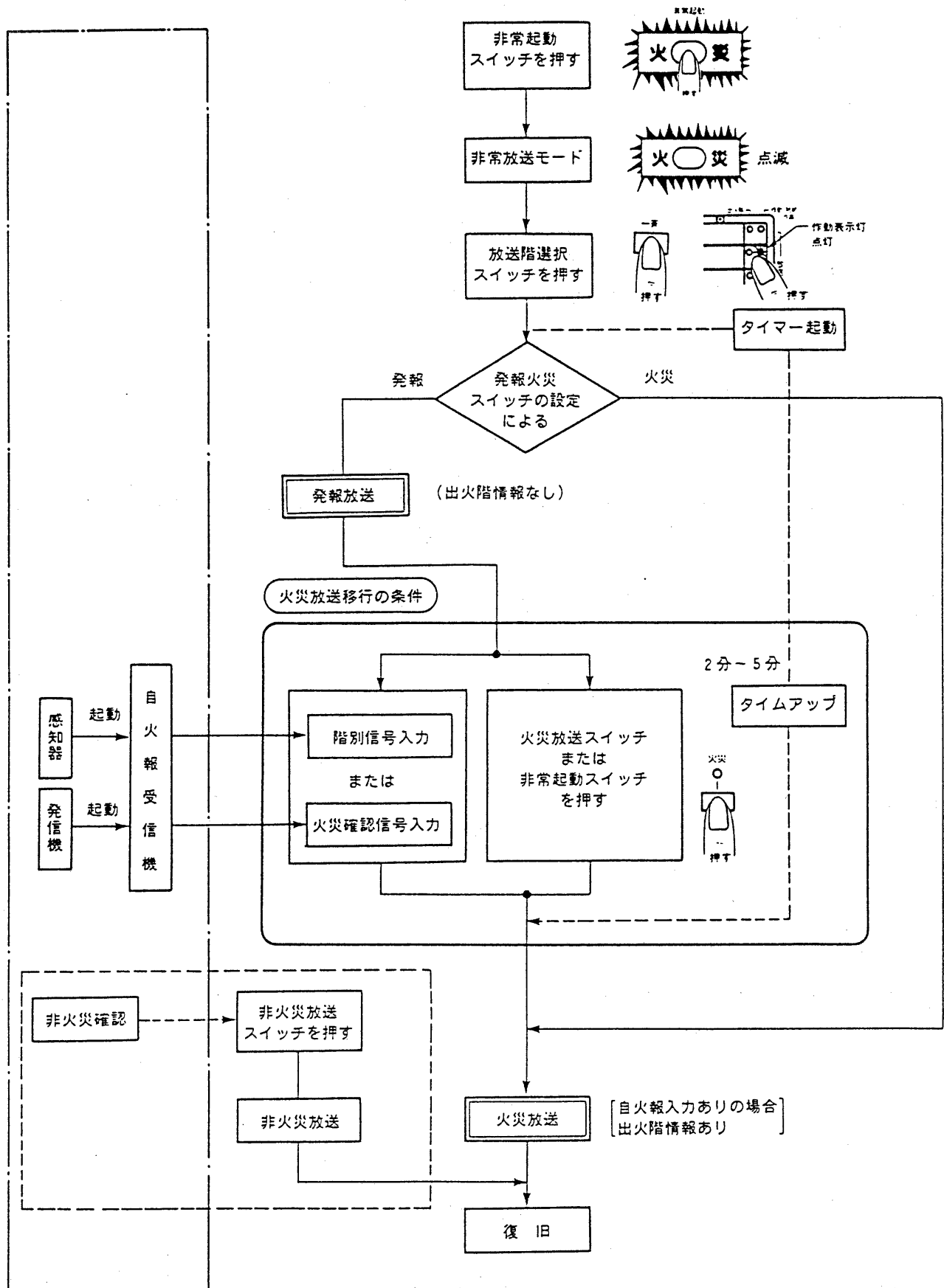
発報放送なし



非常放送のパターン C

手 動 起 動

- 初めに非常起動スイッチを押して、手動起動した場合の動作パターンです。
- 非常起動スイッチを押して、放送階選択スイッチを押すと、非常放送モードとなり、タイマーがスタートし、発報火災切換スイッチの設定により次の2つのモードに分かれます。
 - ・ 発報…発報放送を自動的に放送(下記の移行条件により火災放送に移ります。)
 - ・ 火災…火災放送を自動的に放送
- 非火災放送は、非火災スイッチを押すことによりいつでもできます。
- マイク放送は、発報放送、火災放送中でも常に優先して放送できます。

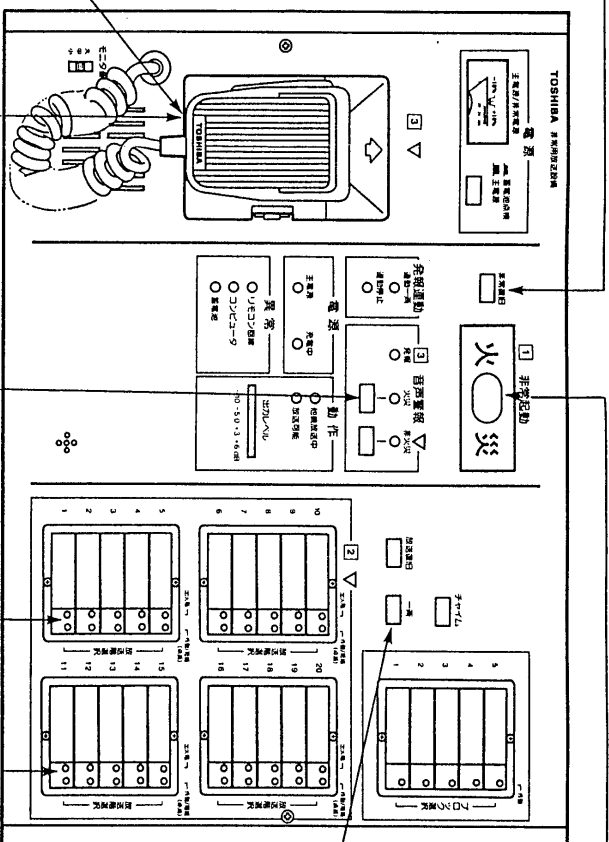


非常放送のしかた ⑤

手動起動

(発報火災切換スイッチが**発報**側)の場合

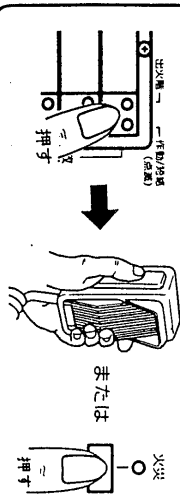
発報放送あり



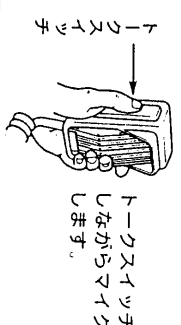
⑧ 非常復旧スイッチを押します。

⑦ 自火報を復旧させます。
(自火報起動時)

⑥ 他の階に放送します。
放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。



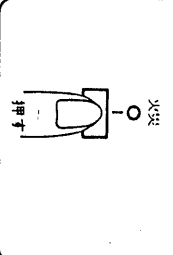
⑤ マイクで放送します。



マイク放送終了後「ビュ〜ビュ〜」がくり返し放送されます。

火災放送がくり返し放送されます。

④ 火災スイッチを押します。



発報放送が2回くり返し放送されます。その後は無音となります。

火災時

③ 火災を確認します。

- 注意**
- 次の場合自動的に火災放送されます。
 - 感知器、発信機、非常電話の起動
 - タイマーのタイムアップ
 - 放送復旧スイッチを押すことにより発報放送の停止(タイマーのストップ)ができます。

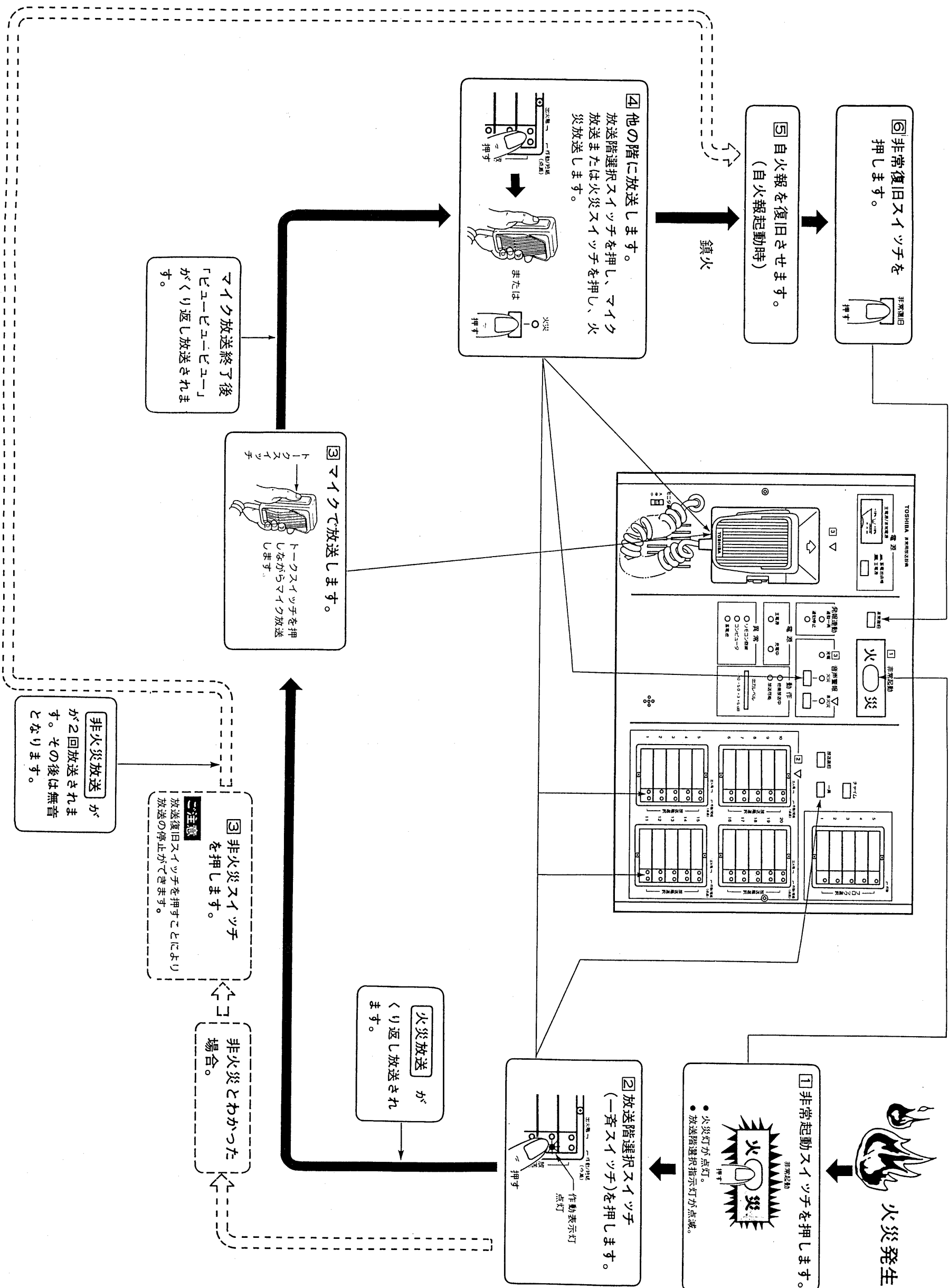
非火災時

③ 非火災スイッチを押します。

非火災放送が2回放送されます。その後は無音となります。

非常放送のしかた ⑥

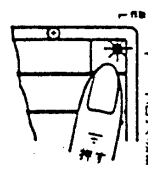
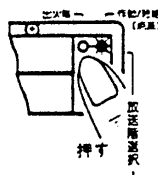
手動起動 (発報火災切換スイッチが**火災**側) 発報放送 なし



マイク放送

① 放送したい場所を選択します。

- 全回線一斉に緊急放送したい場合は一斉放送スイッチ②⑨を押します。
 - 回線別に放送したい場合は放送階選択スイッチ③④を押します。
 - ブロック放送したい場合は、ブロック選択スイッチ⑩を押します。
- ➡ 選択された回線またはブロック指定された回線の階別作動表示灯③③が点灯し、放送可能表示灯⑩が点灯します。
電力増幅器の電源が入ります。
- 緊急放送時(アッテネータのきかない放送時)は、放送階選択指示燈③③が点灯します。



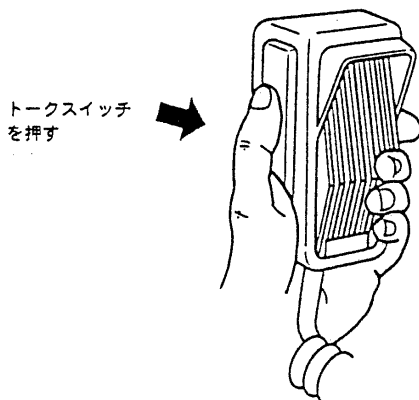
● ブロックスイッチで放送する場合

- ブロック放送をするとき.....ブロック選択スイッチ⑩を押します。
- ブロック放送を終了したとき.....選択したブロック選択スイッチ(階別作動表示灯③③の点灯しているスイッチ)を再度押すか、放送復旧スイッチ②⑦を押します。
- 2以上のブロックに放送するとき.....放送したいブロックスイッチ⑩を順に押します。
- ブロックの中で放送したくない場所があるとき.....放送したくない、不要な場所の放送階選択スイッチ③④を押します。(階別作動表示灯③③が消え、選択が解除されます。)
- 選択したブロックに放送したい場所を追加するとき.....放送したい階別選択スイッチ③④を押します。(階別作動表示灯③③が点灯し、追加されます。)

ご注意 ブロック選択スイッチの選択先は、壁掛形非常放送アンプ本体のテンキースイッチで書き込んだプログラムにより、本体と同様になります。

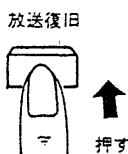
② 非常・業務兼用マイクロホン③を使って放送します。

- 放送前の予告としてチャイム音(4音)を放送したい場合は、チャイムスイッチ②⑧を押します。
- マイクロホンをはずし、トークスイッチを押しながら放送します。



③ 放送が終了したら放送復旧スイッチ②⑦を押します。

ご注意 放送階選択スイッチ③④を再度押して、放送階を解除することもできます。



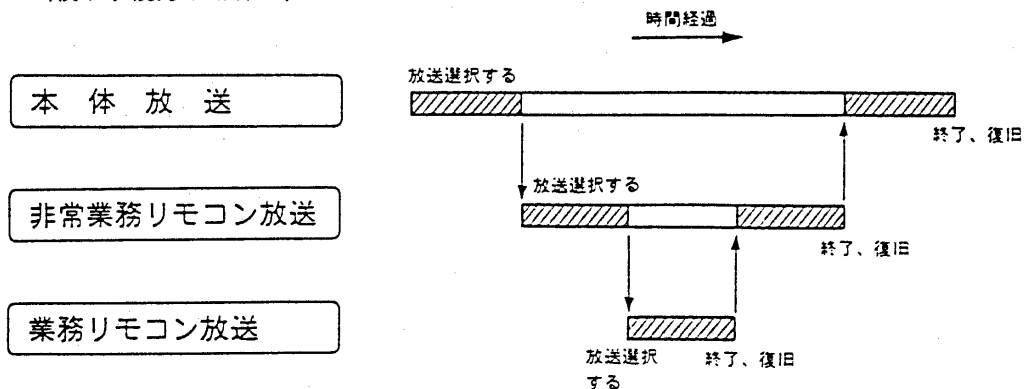
■業務放送の優先順位について

- 本体でのプログラムの書き込みにより、次の例のように最大4段階に優先順位をつけることができます。
同一優先内は、後取りまたはミキシングどちらかに設定できます。
(設定のしかたは別冊の“書き込みのしかた”をご参照ください。)
- (優先順位の例)

放送内容(入力)	第1優先	第2優先	第3優先	第4優先
時 報 チ ャ イ ム	○			
本 体 放 送		○		
非常業務リモコン		○		
業 務 リ モ コ ン			○	
ライン1入力				○

- 出荷時は、全ての放送が第1優先で後取り優先に設定されています。

(後取り優先の動作例)

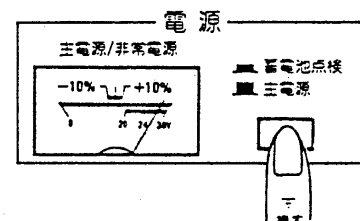


保守点検のしかた (保守点検者の方へ)

非常用放送設備の保守点検は有資格者(消防設備士、第2種消防設備点検資格者)でなければ行なえませんのでご注意ください。

非常用蓄電池のチェックのしかた

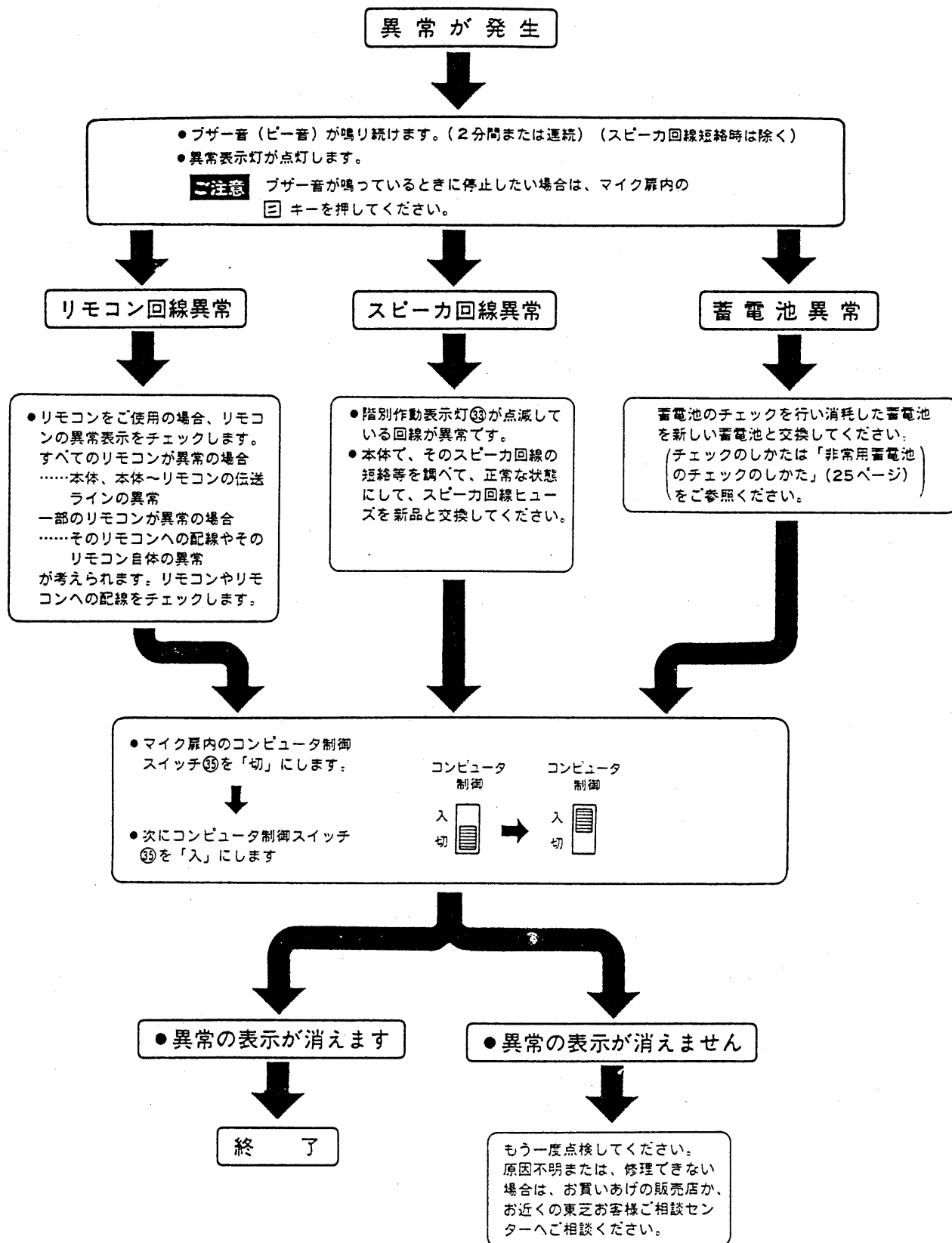
- 蓄電池点検スイッチ⑤でチェックします。点検スイッチ⑤を押したとき、主電源/非常電源電圧計④の指針が24～30V線の間に振れば十分です。
この範囲内に振れないときは蓄電池が寿命ですのですぐに新しい蓄電池との交換が必要です。なお、蓄電池点検は1回5秒以内とし、5秒以上点検スイッチを押さないでください。
- 非常用蓄電池の標準寿命は約4年ですが、非常時に機器を正しく動作させるためにも上記の方法でチェックし、早めの交換をしてください。



※ 本機はトリクル充電方式を採用しており常時充電しております。

自動点検について

- 本体では、常に非常業務リモコンとの通信、スピーカ回線の短絡の点検を自動的に行ないます。
- また、24時間ごとに蓄電池の電圧を点検しています。
- リモコンとの通信、スピーカ回線、蓄電池に何らかの異常が発生しますと異常表示灯が点灯し、異常表示します。
下記の順でチェックしてください。



修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、お買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは機器の形名、壁掛形非常放送アンプ本体の形名およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

仕 様

形 名	ARC-1000RB(10局)、ARC-2000RB(20局)
使 用 電 源	DC24V(本体より受電)
消 費 電 流	DC 600mA
ひ ず み 率	0.5%以下
S / N	55dB以上(非常業務兼用マイク) 65dB以上(外部入力)
周 波 数 特 性	300～6000Hz ± 3 dB以内(非常業務兼用マイク) 50～15000Hz ± 3 dB以内(外部入力)
入 力 回 路	非常・業務兼用マイク -46dB 600Ω 不平衡 1回路 外部入力 -20dB 10kΩ 不平衡 1回路
出 力 回 路	ライン出力 0dB 600Ω 平 衡 1回路
音声警報メッセージ※	感知器発報放送……ただいま〇〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので次の放送にご注意ください。(女声) 火災放送……火事です。火事です。〇〇階で火災が発生しました。落ちついて避難してください。(男声) 非火災放送……さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。(女声)
音声警報シグナル音	非常用放送設備委員会統一音※
出 力 制 御	放送階選択……ARC-1000RB：10局＋一斉(非常・業務) ARC-2000RB：20局＋一斉(非常・業務) ブロック選択……5局
音声警報手動制御	火災放送スイッチ・非火災放送スイッチ付
L E D 表 示	階別作動表示……(緑)ARC-1000RB：10回線、ARC-2000RB：20回線 出火階表示……(赤)ARC-1000RB：10回線、ARC-2000RB：20回線 回線短絡表示……階別作動表示点滅方式 その他……発報放送表示(橙)、火災放送表示(赤)、非火災放送表示(緑)、連動停止表示(赤)、連動一斉表示(赤)
モ ニ タ ス ピ ー カ	1W/8Ω 音量調節器(3段切換式)付
出 力 レ ベ ル 計	5ポイントLED
主電源、非常電源電圧計	常時受電電圧を表示、点検時本体内蔵のバッテリー電圧を表示
塗 装 色	パネル……ブラウングレー(マンセル10YR4/1近似色) 本体・側板……メインカラー(マンセル3.7YR7.7/0.1近似色)
質 量	約6.0kg
そ の 他	・卓上使用時……手前に傾斜をもたせて設置するときは 卓上形金具(形名LAD-9002…別売)が必要です。 ・壁取付使用時……壁取付金具(形名LAD-9003…別売)が必要です。 ・ラックマウント時……ラックマウント金具(受注生産品…別売)が必要です。 ※音声警報部は本体(壁掛形非常放送アンプ)に収納
付 属 品	取扱説明書……1 取付用型紙……1 非常放送のしかた(カードケース入り)……1 東芝お客様ご相談センター一覧表……1